

# III

## 学部・研究科等による 取組み

---

### III-3 埼玉キャンパス

---

埼玉キャンパス学年暦 .....	125
埼玉キャンパスレビュー .....	129
キャンパス共通事項 .....	130
1 学生の受け入れ	
2 学生支援	
3 就業支援	
4 社会貢献	
5 図書館〔埼玉〕	
6 その他	
国際コミュニケーション学部 .....	157
学部レビュー	
1 教育課程	
2 教育組織	
3 研究活動	
経営学部 .....	169
学部レビュー	
1 教育課程	
2 研究活動	
教育学部 .....	175
学部レビュー	
1 教育課程	
2 研究活動	
国際経営・文化研究科 .....	180
研究科レビュー	
1 教育課程	
2 教育組織	
3 その他	

2013(平成25)年度 埼玉キャンパス〔国際コミュニケーション学部/経営学部/教育学部〕 学年暦

4 月				5 月				6 月			
1	月		入学式	1	水	④		1	土		
2	火		1年:オリエン(1日目) 2年:オリエン、健康診断 4年:健康診断 2~4年履修登録(Web)開始 【院】1年生・研究生:オリエン 2年:健康診断	2	木		こどもの日振替休日	2	日		
3	水		全教員会 1年:オリエン(2日目)、健康診断 3年:オリエン、健康診断 編入生:オリエン、健康診断 【院】1年生:健康診断 2年:オリエン	3	金		祝日[憲法記念日]	3	月	⑧	公開授業参観実施期間(6/3~6/28)
4	木		教育学部1年:オリエン(3日目)	4	土		祝日[みどりの日]	4	火	⑧/⑧	
5	金		1年新入生セミナー 2~4年生履修登録(Web)締切(16:30)	5	日		祝日[こどもの日]	5	水	⑨	
6	土		1年新入生セミナー	6	月	④	通常授業[こどもの日振替休日]	6	木	⑧	
7	日			7	火	③/⑦	午前:通常授業 午後:休講、降誕会	7	金	⑧	
8	月	①	前期授業開始 1年履修登録(Web)開始 2~4年履修確認表配布期間(4/8~4/12)	8	水	⑤		8	土		
9	火	①		9	木	④		9	日		
10	水	①		10	金	④		10	月	⑨	
11	木	①		11	土			11	火	⑧/⑨	
12	金	①	1年履修登録(Web)締切(16:30) 4年生履修制限緩和願出締切	12	日			12	水	⑩	
13	土			13	月	⑤	授業アンケート実施日調査期間(5/13~5/24)	13	木	⑨	履修DROP用紙提出期間(9:00~)
14	日			14	火	⑥/⑤		14	金	⑨	履修DROP用紙提出期間(~16:30)
15	月	②	全学年履修変更(Web)開始 1年履修確認表配布期間(4/15~4/19)	15	水	⑥		15	土		
16	火	②		16	木	⑤		16	日		
17	水	②		17	金	⑤		17	月	⑩	授業アンケート実施期間(6/17~6/28)
18	木	②		18	土			18	火	⑩/⑩	
19	金	②	全学年履修変更(Web)締切(13:00) 履修者6名未満休講科目決定	19	日			19	水	⑪	
20	土			20	月	⑥		20	木	⑩	
21	日			21	火	⑦/⑥	GPA成績優秀者・向上者表彰式	21	金	⑩	
22	月	③	教員用履修者名簿配布(予定)	22	水	⑦		22	土		
23	火	③	通常授業[創立記念日] 教職員健康診断 高校教員対象大学入試説明会	23	木	⑥		23	日		オープンキャンパス(第2回)
24	水	③		24	金	⑥	公開授業参観予定日提出日(6月実施分)	24	月	⑪	
25	木	③		25	土		春の保護者懇談会(協賛会総会)	25	火	⑩/⑪	
26	金	③	1~4年履修登録用紙[確定版]提出締切(16:30)	26	日		オープンキャンパス(第1回)	26	水	⑫	
27	土		創立記念日振替休業	27	月	⑦		27	木	⑪	
28	日			28	火	⑧/⑦	GPA成績優秀者・向上者昼食懇談会	28	金	⑪	
29	月		祝日[昭和の日]	29	水	⑧		29	土		
30	火	④		30	木	⑦	履修DROP用紙配布開始	30	日		
				31	金	⑦	【院】2年:修士論文題目届提出締切				
7 月				8 月				9 月			
1	月	⑫		1	木		定期試験(7/29~8/2)	1	日		
2	火	⑬/⑬	午前:休講 孟蘭盆会 午後:通常授業	2	金			2	月		履修登録(Web)開始 前期再試験(過年度生対象)
3	水	⑬		3	土			3	火		
4	木	⑬		4	日		オープンキャンパス(第4回)	4	水		
5	金	⑬		5	月		追試験申込締切(13:00)	5	木		
6	土			6	火			6	金		履修登録(Web)締切(16:30) 成績問合せ締切(16:30) 前期再試験評価締切(過年度生対象)(16:30)
7	日			7	水			7	土		
8	月	⑬		8	木		追試験時間割発表(Web)	8	日		オープンキャンパス(第6回)
9	火	⑬		9	金		追試験 成績評価締切(16:30)	9	月		
10	水		海の日振替休日	10	土			10	火		全教員会
11	木	⑬		11	日			11	水		
12	金	⑬		12	月		追試験	12	木		
13	土			13	火			13	金	①	後期授業開始 履修確認表配布期間(9/13~9/19)
14	日			14	水			14	土		
15	月	⑭	通常授業[海の日] 定期試験時間割発表(Web) 授業アンケート結果フィードバック期間(7/15~7/26)	15	木		追試験評価締切(16:30)	15	日		入試(AO9月)
16	火	⑭		16	金			16	月	①	通常授業[敬老の日]
17	水	⑭		17	土			17	火	①	
18	木	⑭		18	日		オープンキャンパス(第5回)	18	水	①	
19	金	⑭		19	月			19	木	①	4年生履修制限緩和願出締切
20	土		【院】2年:修士論文概要報告会(国際経営) 修士論文中間発表会(国際文化)	20	火			20	金	②	履修登録変更(Web)開始
21	日		オープンキャンパス(第3回)	21	水			21	土		GPA成績不振者面接
22	月	⑮		22	木			22	日		
23	火	⑮		23	金			23	月	②	通常授業[秋分の日]
24	水	⑮		24	土			24	火	②	
25	木	⑮		25	日			25	水	②	
26	金	⑮	前期授業最終日	26	月			26	木	②	履修登録変更(Web)締切(13:00) 履修者6名未満休講科目決定
27	土			27	火		過年度生成績発表(Web)	27	金	③	
28	日			28	水		前期再試験申込締切(過年度生対象)(13:00)	28	土		
29	月		定期試験(7/29~8/2)	29	木			29	日		
30	火			30	金		1~4年生成績発表(Web) 前期再試験時間割発表(過年度生)	30	月	③	教員用履修者名簿配布(予定)
31	水			31	土						

10 月			11 月			12 月		
1	火	③	1	金	⑦	1	日	
2	水	③	2	土		2	月	⑪
3	木	③	3	日	祝日 [文化の日]	3	火	-/⑧
4	金	④	4	月	⑦	4	水	⑪
5	土		5	火	⑧	5	木	⑪
6	日		6	水	⑦	6	金	⑫
7	月	④	7	木		7	土	
8	火	④	8	金	⑧	8	日	
9	水	④	9	土		9	月	⑫
10	木	④	10	日		10	火	⑧/⑬
11	金	⑤	11	月	⑧	11	水	⑫
12	土		12	火	⑨	12	木	⑫
13	日		13	水	⑧	13	金	⑬
14	月	⑤	14	木	⑧	14	土	
15	火	⑤	15	金	⑨	15	日	
16	水		16	土		16	月	⑬
17	木	⑤	17	日		17	火	-/⑭
18	金	⑥	18	月	⑨	18	水	⑬
19	土		19	火	⑩	19	木	⑬
20	日		20	水	⑨	20	金	⑭
21	月	⑥	21	木	⑨	21	土	
22	火	⑥	22	金	⑩	22	日	
23	水	⑤	23	土		23	月	
24	木	⑥	24	日		24	火	
25	金		25	月	⑩	25	水	
26	土		26	火	⑪	26	木	
27	日		27	水	⑩	27	金	
28	月		28	木	⑩	28	土	
29	火	⑦	29	金	⑪	29	日	
30	水	⑥	30	土		30	月	
31	木	⑦	31	日		31	火	
1 月			2 月			3 月		
1	水		1	土		1	土	
2	木		2	日		2	日	
3	金		3	月		3	月	
4	土		4	火		4	火	
5	日		5	水		5	水	
6	月	⑭	6	木		6	木	
7	火	⑭	7	金		7	金	
8	水	⑭	8	土		8	土	
9	木	⑭	9	日		9	日	
10	金	⑮	10	月		10	月	
11	土		11	火		11	火	
12	日		12	水		12	水	
13	月		13	木		13	木	
14	火	⑮	14	金		14	金	
15	水	⑮	15	土		15	土	
16	木	⑮	16	日		16	日	
17	金		17	月		17	月	
18	土		18	火		18	火	
19	日		19	水		19	水	
20	月	⑮	20	木		20	木	
21	火		21	金		21	金	
22	水		22	土		22	土	
23	木		23	日		23	日	
24	金		24	月		24	月	
25	土		25	火		25	火	
26	日		26	水		26	水	
27	月		27	木		27	木	
28	火		28	金		28	金	
29	水					29	土	
30	木					30	日	
31	金					31	月	

2013(平成25)年度 埼玉キャンパス〔国際経営・文化研究科〕 学年暦

4 月			5 月			6 月		
1	月	入学式	1	水	④	1	土	⑦
2	火	【1年生・研究生】オリエンテーション 【2年生】健康診断	2	木	こどもの日振替休日	2	日	
3	水	【2年生】オリエンテーション 【1年生】健康診断	3	金	祝日〔憲法記念日〕	3	月	⑧
4	木		4	土	祝日〔みどりの日〕	4	火	⑧
5	金		5	日	祝日〔こどもの日〕	5	水	⑨
6	土		6	月	④ 通常授業〔こどもの日振替休日〕	6	木	⑨
7	日		7	火	創立記念日振替休業	7	金	⑩
8	月	① 前期授業開始	8	水	⑤	8	土	⑩
9	火	①	9	木	④	9	日	
10	水	①	10	金	④	10	月	⑨
11	木	①	11	土	④	11	火	⑨
12	金	① 履修登録締切(16:30)	12	日		12	水	⑩
13	土	①	13	月	⑤	13	木	⑩
14	日		14	火	⑤	14	金	⑨
15	月	②	15	水	⑥	15	土	⑨
16	火	②	16	木	⑤	16	日	
17	水	②	17	金	⑤	17	月	⑩
18	木	②	18	土	⑤	18	火	⑩
19	金	② 履修変更締切(16:30) 履修者0名休講科目決定	19	日		19	水	⑪
20	土	②	20	月	⑥	20	木	⑩
21	日		21	火	⑥	21	金	⑩
22	月	③	22	水	⑦	22	土	⑩
23	火	③ 通常授業〔創立記念日〕	23	木	⑥	23	日	
24	水	③	24	金	⑥	24	月	⑪
25	木	③	25	土	⑥	25	火	⑪
26	金	③	26	日		26	水	⑫
27	土	③	27	月	⑦	27	木	⑪
28	日		28	火	⑦	28	金	⑪
29	月	祝日〔昭和の日〕	29	水	⑧	29	土	⑪
30	火	④	30	木	⑦	30	日	
			31	金	⑦ 修士論文題目届締切(2年)			
7 月			8 月			9 月		
1	月	⑫	1	木	集中講義(7/29～8/2)	1	日	
2	火	⑫	2	金		2	月	
3	水	⑬	3	土		3	火	
4	木	⑫	4	日		4	水	
5	金	⑫	5	月		5	木	
6	土	⑫	6	火		6	金	
7	日		7	水		7	土	
8	月	⑬	8	木		8	日	
9	火	⑬	9	金	成績評価締切(16:30)	9	月	
10	水	海の日振替休日	10	土		10	火	
11	木	⑬	11	日		11	水	
12	金	⑬	12	月		12	木	
13	土	⑬	13	火		13	金	① 後期授業開始
14	日		14	水		14	土	①
15	月	⑭ 通常授業〔海の日〕	15	木		15	日	
16	火	⑭	16	金		16	月	① 通常授業〔敬老の日〕
17	水	⑭	17	土		17	火	①
18	木	⑭	18	日		18	水	①
19	金	⑭	19	月		19	木	①
20	土	⑭ 修士論文中間発表会	20	火		20	金	② 履修登録変更開始
21	日		21	水		21	土	②
22	月	⑮	22	木		22	日	
23	火	⑮	23	金		23	月	② 通常授業〔秋分の日〕
24	水	⑮	24	土		24	火	②
25	木	⑮	25	日		25	水	②
26	金	⑮	26	月		26	木	② 履修登録変更締切(16:30) 履修者0名休講科目決定
27	土	⑮ 前期授業最終日	27	火		27	金	③
28	日		28	水		28	土	③
29	月	集中講義(7/29～8/2)	29	木		29	日	
30	火		30	金	成績発表(郵送)	30	月	③
31	水		31	土				



10 月			11 月			12 月		
1	火	③	1	金	⑦	1	日	
2	水	③	2	土	⑦	2	月	⑪
3	木	③	3	日		3	火	⑫
4	金	④	4	月	⑦	4	水	⑪
5	土	④	5	火	⑧	5	木	⑪
6	日		6	水	⑦	6	金	⑫
7	月	④	7	木		7	土	⑪
8	火	④	8	金	⑧	8	日	
9	水	④	9	土	⑧	9	月	⑫
10	木	④	10	日		10	火	⑬/⑬
11	金	⑤	11	月	⑧	11	水	⑫
12	土	⑤	12	火	⑨	12	木	⑫
13	日		13	水	⑧	13	金	⑬
14	月	⑤	14	木	⑧	14	土	⑫
15	火	⑤	15	金	⑨	15	日	
16	水		16	土	⑨	16	月	⑬
17	木	⑤	17	日		17	火	⑬
18	金	⑥	18	月	⑨	18	水	⑬
19	土	⑥	19	火	⑩	19	木	⑬
20	日		20	水	⑨	20	金	⑭
21	月	⑥	21	木	⑨	21	土	⑬
22	火	⑥	22	金	⑩	22	日	
23	水	⑤	23	土		23	月	
24	木	⑥	24	日		24	火	
25	金		25	月	⑩	25	水	
26	土		26	火	⑪	26	木	
27	日		27	水	⑩	27	金	
28	月		28	木	⑩	28	土	
29	火	⑦	29	金	⑪	29	日	
30	水	⑥	30	土	⑩	30	月	
31	木	⑦	31	日		31	火	
1 月			2 月			3 月		
1	水		1	土		1	土	
2	木		2	日		2	日	
3	金		3	月		3	月	
4	土		4	火		4	火	
5	日		5	水		5	水	
6	月	⑭	6	木		6	木	
7	火	⑭	7	金		7	金	
8	水	⑭	8	土		8	土	
9	木	⑭	9	日		9	日	
10	金	⑮	10	月		10	月	
11	土	⑭	11	火		11	火	
12	日		12	水		12	水	
13	月		13	木		13	木	
14	火	⑮	14	金		14	金	
15	水	⑮	15	土		15	土	
16	木	⑮	16	日		16	日	
17	金		17	月		17	月	
18	土		18	火		18	火	
19	日		19	水		19	水	
20	月	⑮	20	木		20	木	
21	火		21	金		21	金	
22	水		22	土		22	土	
23	木		23	日		23	日	
24	金		24	月		24	月	
25	土	⑮	25	火		25	火	
26	日		26	水		26	水	
27	月		27	木		27	木	
28	火		28	金		28	金	
29	水					29	土	
30	木					30	日	
31	金					31	月	



## 平成25年度 埼玉キャンパスレビュー

### 1. 平成25年度 振り返り

#### ●キャンパス共通の取組み、成果

これまでの「埼玉みずほ台キャンパス」という呼称を、今年度から「埼玉キャンパス」と改称した。みずほ台の名は図書館名（埼玉みずほ台図書館）に受け継がれている。

平成25年度を振り返って特筆されるのは教育学部の開設である。教育学部は国際コミュニケーション学部人間環境学科こども教育専攻を母体としており、教育学部開設に伴い人間環境学科の入試は行われなくなった。一期生は入学定員を上回る112名が入学した（年度末に除籍者が1名出た）。専任教員は11名で、うち6名は新規採用である。

教育学部の開設で埼玉キャンパスは3学部体制になった。国際コミュニケーション学部は文化コミュニケーション学科だけが、最後になる入試を行い、人間環境学科は2～4年、経営コミュニケーション学科は3・4年在籍するだけである。これらの在籍生を確実に卒業させ就職させることが同学部の課題である。経営学部は2年目に入ったところで、入学定員を充足し教育の質をどのように高めていくかが課題である。

新入生合同セミナー終了後、教育学部から、来年度からは独自にセミナーを計画・実施したいという意向が表明された。授業、取得できる資格、卒業後の進路等で、経営学部と教育学部には接点が乏しいためである。しかし宿泊先の手配や大人数のスケールメリットもあることから、内容は別々という条件で、来年度も同じ日程、同じ宿泊先でセミナーを実施することになった。

埼玉キャンパスの最大の課題は入学定員の確保であり、そのために副学長がキャンパス統括として陣頭指揮に当たることとなった。経営学部では学部長・学科長が先頭に立ってカリキュラム改革に取り組むなど奮闘し、オープンキャンパスでは良好な手応えが得られたものの、AO入試の応募者数は伸び悩んだ。学科ごとの定員確保が困難になると、埼玉キャンパス全体としての定員確保が求められ、教育学部も可能な限り協力したが、最終的にはキャンパスとしての定員確保という目標達成にわずかに及ばなかった。

図書館の1階を改装してラーニングコモンズ化する工事が完了し、後期から運用が開始されると学生の利用状況は大幅に伸びた。授業の場として、ゼミなどでの発表の準備をする場として、あるいは授業の空き時間での居場所として、ラーニングコモンズは有効に活用されている。

年度末になって、ある強化育成クラブの不祥事が明るみに出、事態を重く受け止めた大学当局は監督の解任を決断した。しかし部員の動揺は収まらず、後継監督もスムーズに決まらないなど、想定外の事態の收拾に大学は直面することとなった。

### 2. 次年度への課題、方策

次年度、国際コミュニケーション学部の経営コミュニケーション学科は4年次だけとなり、学科を閉じることになる。経営学部と教育学部は学科単位で定員充足をめざすことを求められており、正念場を迎える。

以上

# 1 学生の受け入れ①〔募集・入試〕

関連委員会	入試委員会
関連部署	アドミッションオフィス、入試課
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

### (1) 方針

アドミッションオフィス、入試課、そして本年4月に設置された「埼玉キャンパス学生募集戦略会議」との連携・協働のもと、入学定員の確保と適切な入学試験の実施に努めていく。

### (2) 目的

- ① 各学部の入学定員を確保するために、出願者数・オープンキャンパス参加者数の目標値を以下のように設定し、実現を目指す。

#### 【目標値】

学部	学科	入学者数	出願者数	OC参加者数
教育学部	こども教育学科	115名	665名	1,550名
経営学部	経営学科	110名	275名	
	観光経営学科	90名	225名	

- ② 各学部の「学生の受け入れ方針」を理解し、学修目的を明確にもった受験生を増やしていく。
- ③ 各入学試験方式による厳正な試験を実施する。

## 2 具体的計画

## PLAN

### 1. 入学定員の確保

アドミッションオフィスの学生募集計画に基づき、数値目標、活動内容を準用していく。そのうえで、委員会として各学部学科、教員の協力のもと、特に以下の事項に取り組む。

- ① 訪問講義を積極的に受入れ、実施する。前年度の実施回数を上回る回数を目指す（昨年度：経営学科5回、観光経営学科4回、教育学部9回）。
- ② オープンキャンパスを通して「高校生が本学の学びに興味を持つ」ことができる模擬授業を実施する。受講後にアンケートを実施し、評価していく。
- ③ アドミッション職員の高校訪問にあたり、在学生の近況について、教員から職員へ、タイムリーで円滑な情報提供を行う。
- ④ 高校教員対象講座の実施に向けた検討を行い、実施する。

### 2. オープンキャンパスの充実

- ① 各学部の「学生の受け入れ方針」の高校生への理解を深めるため、オープンキャンパスでの説明内容や模擬授業内容の充実を図る。
- ② オープンキャンパスや進学相談会等における個別相談の内容を、高校生にわかりやすく、また学修目的を明確に持てるよう、学部・学科の学びの特色、卒業後の就職先等の情報を明示する。

### 3. 入試運営

- ① 円滑な入学試験の運営の準備体制を整える。
- ② 入学試験における危機管理体制を構築する。

## 3 取組状況

## DO

訪問講義、アドミッション職員の高校訪問、オープンキャンパス充実、高校教員対策講座等を通し、高校生、高校教員へのアプローチを図った。入試運営は円滑に行われた。

#### 4 点検・評価

#### CHECK

訪問講義は前年度実施回数を上回らなかった。オープンキャンパスへの高校生3年生の来場者数は1,065人と前年の896人に比して19%伸びたものの、目標値には遠く及ばなかった。

#### 5 次年度に向けた課題

#### ACTION

定員確保のためには、オープンキャンパスへの来場者数を増やすことが必須。入試委員会はアドミッションオフィスと連携して、来場者数増の施策を打つべき。

教育学部と経営学部の募集状況の違いに鑑み、次年度の入試委員会をキャンパス単位から学部単位への移行を検討。

以上

# 1 学生の受け入れ②〔在籍管理〕

関連委員会	学生厚生委員会
関連部署	学生総合相談支援室
関連データ	

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

(1) 教職員による細やかな指導により、退学者および除籍者を抑制する。

## 2 具体的計画

## PLAN

(1) 教育活動を通じて退学者、除籍者の低減に努める。

(2) 学生総合相談支援室の対応、活動により、退学者、除籍者の低減に努める。

## 3 取組状況

## DO

(1) 教育活動を通じて退学者、除籍者の低減に努める。

- 教育目標の設定

教育目標への到達度を検証可能な客観的計画を設定することで、学生の学習意欲を増進させ、大学での学習価値を認識させる。

- コミュニケーション能力の育成

教員からの適切な声掛け、コミュニケーションにより、学生の孤立を防止するとともに、学生のコミュニケーション能力向上に配慮する。

(2) 学生総合相談支援室の活動、対応により、退学者、除籍者の低減に努める。

- GPA制度の活用

成績優秀者および向上者に対しては表彰式、学長との昼食会、報奨金の授与等によって、学生の努力を奨励し、成績不振者に対してはアドバイザー面接を実施し学生への督励を行う。

- ソーシャルワーカー、カウンセラーによる指導

不登校、問題行動、発達障害等多様な学生の状況に応じて、教職員をはじめ、福祉的な視点で問題解決に導くソーシャルワーカーと、心理学的な面から解決に導くカウンセラーが相互に連携しながら学生の指導を行う。

- アドバイザーとの連携による学生指導

授業や課外活動をはじめとする様々な学生の情報を整理し、アドバイザーと連携しながら問題解決に取り組む。

(3) 教職員の連携「学生支援連携会議」

- 多様化する学生や課題の多い学生に対し、学内全体で対応する体制（チームアプローチ）を構築し指導を行う。

メンバーはアドバイザー、学習支援室教職員、教務担当教職員、学生厚生担当教職員、キャリア担当教職員、アドミッション担当教職員、国際交流センター職員、ソーシャルワーカー、カウンセラー、看護師により構成され、学生情報の共有化、相談内容の原因及び解決方法の検討、アドバイザーとの連携を図る。

〈国際コミュニケーション学部〉

① 退学・除籍者数及びその内訳

平成23年度まで例年おおよそ100名の学生が退学・除籍となっていたが、平成24年度は59名、平成25年度は49名であった。

退学・除籍者：49名（内訳：退学29名、除籍20名） 退学率：5.0%

人間環境学科人間環境専攻 : 10名 退学率：5.7%

人間環境学科子ども教育専攻 : 4名 退学率：2.4%

経営コミュニケーション学科 : 19名 退学率：8.8%

文化コミュニケーション学科 : 16名 退学率：3.8%

② 退学理由

一番多い理由は、経済的困窮が25名、続いて修学意思の低下が7名、進路変更（進学）及び進路変更（就職）がそれぞれ6名であった。

③ 入試別

退学者の入試区分別では、全体の43%がAO入試であった。

④ GPA成績

退学時のGPAが1.0未満であった学生が全体の57.1%を占めている。

〈経営学部〉

① 退学・除籍者数及びその内訳

平成24年度の退学・除籍者は3名であったが、平成25年度は11名であった。

退学・除籍者：11名（内訳：退学10名、除籍1名） 退学率：4.4%

経営学科 : 10名 退学率：6.7%

観光経営学科 : 1名 退学率：1.0%

② 退学理由

一番多いのは、進路変更（就職）が5名、続いて就学意思の低下及び進路変更（進学）、経済的困窮が各2名であった。

③ 入試別

退学者の入試区分別では、全体の55%がAO入試であった。

④ GPA成績

退学時のGPAが1.0未満であった学生が全体の72.7%を占めている。

〈教育学部〉

① 退学・除籍者数及びその内訳

平成25年度に開設した教育学部は、退学・除籍者は1名で、112名の入学者に対し退学者0名、除籍者1名、退学・除籍率は0.9%であった。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

平成24年度よりも退学者、除籍者は減少している。アドバイザーの指導や学生総合相談支援室の対応、活動に一定の効果があったと考えられるが、今後も継続的な指導が必要であろう。

以上



## 2 学生支援①〔学生厚生〕

関連委員会	学生厚生委員会
関連部署	学事部（学生厚生）
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

(1) 学生が健全で有意義な学生生活を送り、学業および諸活動に専念できる環境を作り上げる。

### 2 具体的計画

### PLAN

- (1) 学内外における事故、事件への適正な対応
- (2) ルール、マナーの徹底
- (3) 諸行事への支援とリーダー育成
- (4) 心身の健康についての知識を浸透させる

### 3 取組状況

### DO

- (1) 学内外における事故、事件への適正な対応
  - ・事故、事件発生後は学生厚生委員および職員の協力により、早急に事情聴取を行い、事故事件の客観的情況を把握するとともに、学生の安全を考慮した上で適切な初期対応を行う。
  - ・指導、処分については過去の事例を参考にし、学生の反省状況や指導環境を勘案して決定する。
  - ・指導中、処分中における学生の反省状況を観察し、指導内容や学生の改善状況についてアドバイザーに連絡する。指導、処分後もアドバイザーとは必要に応じて緊密に連絡を取り、学生の観察指導を行う。
- (2) ルール、マナーの徹底
  - ・平素のルール、マナー遵守について喚起を促す。
  - ・自動車通学、違法駐車については、事実確認の後、反省文の提出および一週間の監視活動（正門にて自動車通学を監視）を行う。監視活動は学生厚生委員かアドバイザー立ち合いのもとで実施する。また、近年自転車（軽車両）事故に対する関心が高まる中、新入生セミナーやゼミへの配布物により、自転車通学マナーと保険加入を指導する。
  - ・アドバイザーと連携した学生指導を行う。
- (3) 諸行事への支援とリーダー育成
  - ・淑徳祭については、企画立案の段階から適切なアドバイスをを行い、自ら考え実行する力を養成する。また教職員や学生間の報告、連絡、相談を徹底させ、確実に効率的な準備作業を指導する。スポーツ大会、サマーナイトフェスタ、サイレントナイトフェスタについては、サークルクラブ連絡会の企画にアドバイスをを行い、安全で学生が楽しめる行事となるよう指導する。
  - ・平成25年1月4～5日に実施するリーダーズキャンプを通して、学生のリーダーシップに対する理解を深めるとともに、実践力を高めたい。過去4年間のリーダーズキャンプでも学生からの評価が高かった外部講師（アソベンチャージャパン）を継続して依頼する予定である。過去3年間は各サークル代表一名を強制的に参加させていたが、予算の関係で本年度は希望学生のみでの活動となる可能性がある。
- (3) 健康相談業務に関する各行事・活動を通じて、心身の健康に対する知識を浸透させる
 

〈健康相談に関する行事予定〉

  - ・新入生セミナー、寸劇の指導と評価（4月）
  - ・世界禁煙デーの啓蒙活動（5月）
  - ・性教育に関する講演（7月）
  - ・救命救急講習（7月、11月）
  - ・薬物に関する講演（12月）



- ・女性力アップ講座（7月、11月）
- ・麻疹抗体確認の徹底（7月25日完了予定）

#### 4 点検・評価

#### CHECK

- (1) 目標1に関して
  - ・学生総合相談支援室、アドバイザー、サークル顧問と連携し早急な事情聴取と適正な初期対応を行った。
- (2) 目標2に関して
  - ・違法駐車に対する対応は適正に行われたが、違法駐車学生が存在する。
  - ・喫煙場所変更の周知とマナーの徹底を委員会教職員と学生で行った。
  - ・サークル棟管理、バス停、バス内でのマナーに問題が見られた。
- (3) 目標3に関して
  - ・スポーツ大会、サマーナイトフェスティバル、淑徳祭、サイレントナイト等の行事については、学生の意見を尊重しながら適切なアドバイスを行った。
  - ・諸行事を通じてリーダー育成を行ったが、引き継ぎに問題点が残されている。
- (4) 目標4に関して
  - ・新入生セミナー、性教育に関する講演、世界禁煙デー、救命救急講習の内容は良好であったが、周知方法の改善によって参加意識が向上すると考えられる。
  - ・女性力アップ講座は、人間力アップ講座に変更した。リーダーの募集、育成に課題が残った。

#### 5 次年度に向けた課題

#### ACTION

- (1) 目標1に関して
  - ・課外活動における指導方法について継続して検討を行う。
- (2) 目標2に関して
  - ・配布物への工夫。
  - ・アドバイザーとの連携強化。
  - ・サークル連絡会との連携強化。
- (3) 目標3に関して
  - ・次年度への引き継ぎを考慮したリーダーの育成。
- (4) 目標4に関して
  - ・次年度への引き継ぎを考慮したリーダーの育成。

以上

## 2 学生支援②〔障がい学生、学習支援、GPAの運用等〕

関連委員会	学習支援センター
関連部署	学生総合相談支援室
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 活動方針

学部長の方針「学生の主体性を引き出し、社会人としての自立に向け、個別にいていねいにかかわる」を実現すべく、担当教員、職員と協力し学生の学習活動及びキャンパス生活を支援する活動を行う。新学部の学習支援活動を含め、キャンパス全体のスムーズな連携を図る。

#### (2) 目標

##### ① 修学支援、学習支援

##### (ア) 障がい学生の学習支援

(イ) アドバイザーとの連携、バックアップ

##### ② 学習状況のフィードバック

##### (ア) GPAの運用、表彰

(イ) 日本語テスト・CASEC等、基礎学力の学科へのフィードバック

### 2 具体的計画

### PLAN

#### ① 修学支援、学習支援

##### (ア) 障がい学生の学習支援

本年度は障がい学生の学習支援のニーズはないが、発生した場合に備え担当者を決めニーズに対応できるよう準備する。

##### (イ) アドバイザーとの連携、バックアップ

教員からの相談、問題提起に対応する。昨年まではこの点が未整備だったため、本年度はニーズの分析を始める。

#### ② 学習状況のフィードバック

##### (ア) GPAの運用、表彰

GPA優秀者表彰式と昼食会を年2回開催する。GPA不振者に対する3者面談を年2回開催する。

##### (イ) 日本語テスト・CASEC等、基礎学力の学科へのフィードバック

新入生に対する入学時学力テスト数の増加に対応しつつ（日本語テスト・CASECに加え、大学入試センターによる読解力と数学能力テスト）実施を支援し、データの蓄積を継続する。

### 3 取組状況

### DO

#### ① 修学支援

##### (ア) 障がい学生の学習支援

本年度は障がい学生の学習支援のニーズはなかった。

##### (イ) アドバイザーとの連携、バックアップ

学習指導上のニーズ分析のための聞き取りを実施した。

#### ② 学習状況のフィードバック

##### (ア) GPAの運用、表彰

GPA優秀者表彰式と昼食会を各期1回（年間で2回）開催した。また、成績不振者面接を各期に実施した。

##### (イ) 日本語テスト・CASEC等、基礎学力の学科へのフィードバック

日本語テストについては教養基礎の科目担当者に授業時間内でのフィードバックを依頼した。

## ① 修学支援

## (ア) アドバイザーとの連携、バックアップ

聞き取り内容を取りまとめた。アクティブラーニングが前提とする学力・学習習慣をもたない学生の指導、学生間の学力差と学年進行による差の拡大等の課題が見出された。

## ② 学習状況のフィードバック

## (ア) GPAの運用

成績優秀者表彰実施方式について副学長より再検討の指示があり、後期表彰者を対象にアンケート調査を行った。成績不振者については、対策を強化する必要性が認識された。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

## ① 修学支援

## (ア) アドバイザーとの連携、バックアップ

調査対象を広げ、学生の学習をサポートする業務に関するニーズをさらに分析する。

## ② 学習状況のフィードバック

## (ア) GPAの運用、表彰

GPA表彰：現行の表彰式+昼食会の形式から、次年度より表彰式と記念品の方式に変更する提案を行い、学長より了承を受けた。

GPA不振者面接：成績不振者対策は、GPA不振者に加え、単位数不足者も面接対象とする案を各学部教授会で検討中である。

以上

## 3 就業支援

関連委員会	総合キャリアセンター
関連部署	総合キャリア支援室
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### 活動方針

総合キャリアセンターは、キャリア開発ならびに就職活動の支援を通じて、学生の自己発見と自己実現を総合的に促進する。

- (1) 社会人基礎力(3つの能力:「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)。12の能力要素)や人間力を育成志向するためのキャリア教育(インターンシップを含む)および就職支援(資格取得や就職指導)を行う。
- (2) 学生一人ひとりに向き合い、納得感をもったキャリア選択ができるよう支援する。

目標(1) 外部環境に左右されない安定的な高就職率を維持。目標: 90%以上

(2) 学内選考会への参加又は本学への積極的特別卒求人 の獲得。目標: 新規5社以上

(3) キャリアデザインI、IIの肯定的評価。目標: 各75%以上

(4) キャリアデザインIII、IVの受講学生の確保。目標: 各60名以上および肯定的評価。目標: 各80%以上

(5) インターンシップ受入先の開拓。目標: 新規5件以上

(6) 資格取得支援講座の充実および参加者増。目標: 前年比10%増

### 2 具体的計画

### PLAN

- ・就職率の維持向上のため、ゼミ別の総合キャリア支援室利用ガイダンスや、4年次のリスタートセミナー等、ゼミ時間を活用するなど担当教員との共同連携体制を深める。
- ・保護者向けの就職支援説明会の開催やニュースレターの定期発行等、積極的に情報を提供し、保護者の理解と協力を促進し、共同連携体制を深める。
- ・総合キャリア支援室の個別支援体制、支援施策を維持強化する。
- ・総合キャリア支援室に企業担当職員を置き、企業との関係強化を深める。
- ・キャリアデザインI、IIのインストラクターマニュアルの改訂を行い、また、担当教員間での経験交流会を月に1回程度開催し、都度の改善を図り授業満足度の向上を目指す。
- ・キャリアデザインIII、IVの学期開始時のオリエンテーションで積極的にPRを行う。ゼミ担当教員から履修登録指導で積極的な周知徹底を行う。内容面は、卒業生を特別講師に招聘し実施する初めての講義スタイルのため、4名の担当教員間で情報共有し都度の改善を図ることで授業満足度の向上を目指す。
- ・インターンシップ受入先開拓のため、学生や教員のニーズ調査を行い新規開拓を行う。
- ・資格取得支援講座の新たなパンフレットを作成し、学科やゼミ担当教員経由で勧奨する。資格取得支援講座オリエンテーションを集中的に開催する等、積極的にPRを行う。

### 3 取組状況

### DO

- ・就職率の維持向上のため、ゼミ担当教員に協力や共同連携体制を深めることができた。
- ・保護者向け就職支援説明会の開催やニュースレターの定期発行を行い、保護者の理解協力を促進し共同連携体制を深めることができた。
- ・総合キャリア支援室の個別支援体制、支援施策の維持強化を図った。また、室内に企業担当職員を置き、企業との関係強化を図った。
- ・卒業生が活躍している企業を中心に積極的に学内選考会に招致した。
- ・インターンシップに参加したい学生、教員のニーズ調査を行い、受入先の新規開拓を行った。

- ・資格取得支援講座の新たなパンフレットを作成した。学科やゼミ担当教員経由で資格取得支援講座オリエンテーションを開催する等、積極的にPRを行った。

#### 4 点検・評価

#### CHECK

- ・就職率は95.6%で最低目標90%以上を達成した。また、前年度実績95.2%を0.4ポイント上回った。
- ・本学学生と積極的にマッチングを図った企業が今期8社増加した。
- ・キャリアデザインⅠは、授業満足度目標75%を達成したが、キャリアデザインⅡは、目標75%に達しなかった。
- ・キャリアデザインⅢ、Ⅳの受講学生は通年で45名と目標に達しなかったが、評価は両者ともに目標80%を達成した。
- ・インターンシップ受入先企業を5件新規開拓し目標を達成した。
- ・支援講座数および参加者数ともに大幅に増加し目標を達成した。

#### 5 次年度に向けた課題

#### ACTION

- ・就職の未活動または少活動学生の早期掘り起こしと、就職活動を教員と連携し促進する。
- ・採用企業との個別マッチングを強化する。
- ・3年次からの就職支援強化策として、正課授業の運用と講義内容の充実し、学生への周知徹底を行う。
- ・実習希望先の過去の受入れ実績、および実習内容等の精査により、量より質の観点からインターンシップ先を再構築する。
- ・講座不成立の原因分析を行う。また、次年度に向けた新規講座の需要調査を行い、資格取得支援講座の実施計画を策定する。

以上

## 4 社会貢献

関連委員会	広報・地域連携委員会
関連部署	総務部
関連データ	・「平成25年度 第2期 子ども大学ふじみ事業報告書」富士見市教育委員会

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 地元自治体、教育委員会生涯学習課との協働事業で、文京学院大学・淑徳大学共催公開講座、淑徳大学／みよしコミュニティカレッジ、所沢市淑徳大学連携共催セミナー、子ども大学ふじみ、子ども大学みよしを行う。
- (2) 大学広報誌 Together の編集、プレスリリースを行う。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ・文京学院大学・淑徳大学共催公開講座（2回）
- ・淑徳大学／みよしコミュニティカレッジ（運動系3回、歴史系3回、教育系1回、異文化系3回）
- ・所沢市淑徳大学連携共催セミナー 5回程度
- ・子ども大学ふじみ 7回
- ・子ども大学みよし 5回
- ・大学広報誌 Together の編集 5回
- ・プレスリリース

### 3 取組状況

### DO

- ・文京学院大学・淑徳大学共催公開講座（例年と同じ2回）  
全体テーマ「今いちど家族を問い直す 置き去りにしたものはありますか？」  
1日目「結婚に揺れる親子の気持ち」、2日目「「かぞく」で向き合う家族制度」各2講演者
- ・淑徳大学／みよしコミュニティカレッジ（運動系3回、歴史系3回、教育系1回、異文化系3回）  
「スポーツレクリエーション講座」西田教授担当 3回  
「柳沢吉保と武蔵国」宮川教授担当 3回  
「子どもの未来を育む教育と大人の役割」高橋敏教授担当 1回  
「ロシア民謡と東欧の民族舞踊を楽しむ」岩村教授担当 3回
- ・所沢市淑徳大学連携共催セミナー「問わず語り」宮川教授担当 8回
- ・子ども大学ふじみ 7回  
「入学式、グループゲームでともだちの輪をつくろう」「東京スカイツリーの秘密と不思議」「こころの不思議」「お金の教室」「江川の生き物調べ」「和菓子の秘密」「スコットランドを学ぼう、修了式」岩村教授 実行委員会委員長
- ・子ども大学みよし 5回  
「入学式、スポーツで友達の輪をつくろう」「ハンドボールを体験しよう」「コミュニケーションカラーセラピー」「パン作りの秘密を探れ」「漢字から見える古代人のすがた、修了式」岩村教授 実行委員会委員長
- ・大学広報誌 Together の編集 5回 例年通り
- ・プレスリリース 経営学部関連の公開講座に関して 1回



埼玉キャンパスの地元、富士見市及び三芳町の教育委員会生涯学習課との各種提携事業が展開されている。大人対象の生涯学習講座と小学生対象の「子ども大学」があるが、とくに「子ども大学」は、前年度が富士見市のみだったが、本年度は三芳町でも行われるようになった。2つの「子ども大学」の実行委員長を本広報・地域連携委員会委員長の岩村教授が務めている。「子ども大学」には、教育学部の学生14名を学生スタッフとして派遣している。また、岩村教授は三芳町公民館運営委員会委員・富士見市社会教育委員会委員も務め、生涯学習関連での人脈が地元で広がりつつある。伊藤委員は、富士見市みずほ台西商店会での連携事業を模索しており、次年度は、経営学部での正課教育で連携が生まれそうである。宮川委員は、所沢市と三芳町の生涯学習の講師とを11回務めた。西田元委員（昨年まで広報・地域連携委員）は、スポーツとレクリエーション関連で講師を務めるとともに、地元自治体のレクリエーション関連の諮問委員を引き受けている。また、河津委員は、教育学部関連の学生派遣・講演会の調整を行った。

総じて生涯学習関連で地元との連携が広がっているが、地元産業・商店会との関連ではまだ連携の可能性を模索中である。地元との連携事業は、とくに民間との連携事業の場合、個人的相互信頼に基づく関係から団体間の協働に発展していくので、当委員会委員以外の教職員も地元との繋がりを広く深く長期に渡って育んでいくことが望まれる。お互いを深く知り、信頼することによって大学の正課教育・正課外教育・広報活動・社会貢献の可能性も生まれてくるだろう。

また、広報活動に関しては、Together編集を、外部委員の朝倉准教授（経営学部）、委員の河津教授（教育学部）と岩村教授（国際コミュニケーション学部担当）で担当し、協力して行った。しかし、プレスリリースは、各事業に追われ、余裕がない。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

富士見市とは「子ども大学」関連でさらに進展があるだろう。学生の派遣も増える予定である。また、少しずつではあるが、次年度は、みずほ台西商店会と鶴瀬西連合商店会の事業に学生が参加できる可能性が生まれてきている。地元コミュニティラジオ事業への参加、みずほ台祭りへの学生参加、鶴瀬よさこい祭りへの学生ボランティア参加の可能性が出てきた。地元の少子高齢化が進む中で、大学がどのように貢献できるか、地元から大学に向けられた視線にも熱いものがある。地元ニーズと大学が求めるものの調整なくして、地域連携はありえないので、次年度の事業の中から新たな社会貢献の道を模索していく。

一方、広報関連では、当委員会のみで戦略を立てるのは難しい。大学内広報のTogether編集は、大学全体の指針に基づき、本委員会は例年並みの体制で臨む。また、外部向けプレスリリースは、大学の統一的戦略の下、各部署間が役割分担を明確にし、自発的に行うことが望ましいと考える。

以上

## 5 図書館〔埼玉〕

関連委員会	図書館運営委員会
関連部署	図書館事務室
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### 活動方針

- (1) ラーニング・コモنزの機能を担う図書館とする。
- (2) 埼玉キャンパスの学生の授業時間外での学習支援を強化する。
- (3) 教職員や学生のコミットを増やし、参加型の図書館運営を行う。

#### 活動目標

- (1) 後期までにラーニング・コモنزに対応した1階フロアの改装をし、後期からは、ラーニング・コモنزのスペースの積極的な利用を図る。
- (2) 従来通り、1年生向け図書館ガイダンスを実施する。
- (3) 学展など図書館の従来への企画に加え、Harudokuなど新規の企画を増やし、在学生の参加を促していく。
- (4) 読解ワークを引き続き周知し、特に経営学部の学生参加を増やす。

### 2 具体的計画

### PLAN

#### (1)

- ① 1階を全面改装し、グループ学習及び学習成果発表の準備に使えるようにする。前期中にこれまで視察した他大学の先行事例などをもとにして、レイアウトや什器などを確定し、夏期休暇中に改装工事を行う。
- ② 上記に伴い、図書館としてのラーニング・コモنز向けイベントの企画を立案し、後期から実施する。
- (2) 入門セミナーの授業において、図書館利用者ガイダンス「Step 1」を100%実施する。
- (3) 前期中は図書館1階の資料展示コーナーにおいて、前年度と同様に学生による展示の企画を募り、実施する。
- (4) 天声人語書き写しノートを使用した読解トレーニングを実施する。教育学部では新入生全員を対象とした実施となるので、図書館はそれ以外の学生に対して、前年度と同様かそれ以上の参加を促していく。

### 3 取組状況

### DO

- (1) 改装後の後期以降、毎月の入館者数が一昨年比(昨年はカウンターが故障しており比較できない)で約2,000人増加している。
- (2) 1年生対象のガイダンス「Step 1」をすべてのゼミで実施できた。
- (3) 前期のHarudokuと後期のAkidokuを実施して、在学生への参加を呼びかけた。また、授業のアウトプット、サークルや学生個人の創作物を展示するなど、ラーニング・コモنزとも関連する企画展示等を実施した。
- (4) 天声人語を書き写して語彙力を増加させるための「読解プログラム」を前年度に引き続き実施している。学習サポートを行う学生スタッフを配置することも考えたが、実現には至らなかった。



## 4 点検・評価

## CHECK

- (1) これまで実施してきたガイダンス、今年度新たに実施したHarudokuとAkidokuなども含めて、基本的な活動はおおむね順調である。
- (2) 今年度の最も大きな事業であるラーニング・コモンズも、これまでのところ非常に有効に活用されているといえる。
- (3) 天声人語ノートを用いた読解プログラムも、教育学部では学部主体での実施となり、発展的に手放せたという意味で成功と判断している。
- (4) 以上の事から、全体としても達成率は80%以上と判断して良いと考えている。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- (1) ラーニング・コモンズのスペースがさらに活用されるよう、各学部、委員会等と協力して、魅力的な企画を実現していきたい。
- (2) 2年生以上を対象とした、データベース利用法等のガイダンスを積極的に周知して利用者数を増やしていきたい。
- (3) HarudokuとAkidokuへの理解が深まり、資料の貸し出し数ものばすことができたが、次年度以降はラーニング・コモンズの利用促進と合わせて、新たな企画を実施していきたい。
- (4) 学生の学習支援体制を関連部署との協働しつつ、充実させていけるようにしたい。図書館独自の取組みとしては、データベース活用のガイダンス等があるが、ラーニング・コモンズにおける学習支援・オフィスアワーの開設など、できるものから実施していきたいと考えている。

以上

## 6 その他①〔教務〕

関連委員会	教務委員会
関連部署	学事部
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 活動方針

教務委員会の規程に基づき、本キャンパスの教務に関する事項を審議し、必要に応じて教授会に提案・報告する。また、3学部の教務にかかわる学部長の諮問事項について審議する。

#### (2) 目標

- ① 本キャンパスの教育の質を保証し、学生の授業への満足度を高める。
- ② 教員が教育の質を高める活動に能動的に且つ積極的に取り組み、本キャンパスのACTIVE LEARNINGの成果につなげる。
- ③ 3学部教務委員間の役割分担・連携を重視し、効率的に教務活動を展開する。

### 2 具体的計画

### PLAN

(1) 教育の質を保証し、学生の授業への満足度を高めるために、全教員に次のように呼びかける。

- ① 90分授業の実施を徹底し、学生の予習・復習時間を増加する。
- ② 欠席、遅刻、私語などに関する履修マナーを学生に徹底させる。

(2) 7月および12月に「教育アンケート」を実施し、1年生を対象に(1)－①②を確認すると同時に、授業への満足度を調査する。

(3) 教員が教育の質を高める活動に能動的に且つ積極的に取り組み、本キャンパスのACTIVE LEARNINGの成果につなげる。

- ① 教員の積極的な推奨・推薦を通じて、学生懸賞論文・エッセイコンテスト、スピーチコンテスト、DIGITAL AWARDコンテストへの参加人数を増やす。
- ② 10月学園祭における全学ゼミ発表を実施する(100%の参加率)。
- ③ 全ゼミの卒論コンテストへの参加を要請する(各ゼミから1～3作品の推薦)。

(4) 3学部教務委員間の役割分担・連携を重視し、効率的に教務活動を展開する。

委員を「人間環境学科・文化コミュニケーション学科」、「経営学科・経営コミュニケーション学科」、「観光経営学科・経営コミュニケーション学科」「こども教育学科」の学科教務担当に役割分担をする。

### 3 取組状況

### DO

目標(1)に対して

- ① 全教員会や配布資料を通して、90分授業の徹底実施、学生に予習・復習を促すことを呼びかけた。また、全教員にACTIVE LEARNINGの取り組みを呼びかけた。
- ② 7月および12月に「教育アンケート」を実施し、1年生を対象に授業への満足度を調査した。

目標(2)に対して

次の具体的な数値目標を設定し、全教員に協力していただいた。

- ① 10月学園祭における全学ゼミ発表(100%の参加率)。
- ② 全ゼミの卒論コンテストへの参加(各ゼミから1～3作品の推薦)。

目標(3)に対して

教務委員5人を学科教務担当としての役割分担をした。

目標（1）に関して

7月および12月の教育アンケート調査は計画通り実施した。アンケート結果を各学科・学部にフィードバックし、次学期の授業運営の参考資料として提供した。90分授業の徹底実施は課題として今後も取り組んでいくべきである。

目標（2）に関して

学園祭でのゼミ発表や卒論・制作コンテストの参加数は、昨年度と比較しほぼ横ばいとなっていた。参加率は100%ではなかった。また、国家試験の影響で卒論コンテストに参加できなかった福祉コースゼミは、H25年12月に独自の発表会を実施した。

目標（3）に関して

計画通り、教務委員を「人間環境学科」、「文化コミュニケーション学科」、「経営学科・経営コミュニケーション学科」、「観光経営学科・経営コミュニケーション学科」の学科教務担当に役割分担をした。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- ・7月および12月に「教育アンケート」を実施し、1年次生の授業満足度を調査し各学科にフィードバックしたが、いかに授業改善に反映させるかが課題である。
- ・キャンパスの教育活動の活性化のためにも、次年度より教員の積極的な推奨・推薦を通して、学生懸賞論文・エッセイコンテスト、スピーチコンテスト、DIGITAL AWARDコンテストへの参加人数を増やしていきたい。

以上

## 6 その他②〔入学前教育・初年次教育等〕

関連委員会	学習支援センター
関連部署	学生総合相談支援室
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 活動方針

学部長の方針「学生の主体性を引き出し、社会人としての自立に向け、個別にいていねいにかかわる」を実現すべく、担当教員、職員と協力し学生の学習活動及びキャンパス生活を支援する活動を行う。新学部の学習支援活動を含め、キャンパス全体のスムーズな連携を図る。

#### (2) 目標

入学前教育及び初年次教育の企画・調整

(ア) 入学前セミナーの企画立案、調整

(イ) 初年次教育（基礎演習Ⅰ、入門セミナー、キャリアデザイン、教養基礎等）の企画立案、調整

### 2 具体的計画

### PLAN

#### (1) 入学前セミナーの企画立案、調整

入学手続きを済ませた高校生を対象に入学前の自習課題を課し、フィードバックの機会を設ける。

#### (2) 初年次教育（基礎演習Ⅰ、入門セミナー、キャリアデザイン、教養基礎等）の企画立案、調整

初年次教育科目（基礎演習Ⅰ、キャリアデザイン、教養基礎等）間の調整の必要の有無を確認する。

### 3 取組状況

### DO

#### (ア) 入学前セミナーの企画立案、調整

各学部主体で入学前の自習課題とウインターセミナー・スプリングセミナーの計画を立案し、セミナーを実施した。学習支援センターはとりまとめと調整を行った。

#### (イ) 初年次教育（基礎演習Ⅰ、入門セミナー、キャリアデザイン、教養基礎等）の企画立案、調整

学部間で科目名、内容がかなり異なり、またキャンパス内での業務分掌が不明確で調整は実施できていない。

### 4 点検・評価

### CHECK

学部再編移行期、かつ各学部の特色が異なる事情があるが、実施内容にもれがないよう確認をすすめた。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

学部改編後の業務分掌が試行錯誤中のため、各業務での学習支援センターと学部との分担範囲を見極めることは現段階では難しい。この点については来期以降確認を進める必要がある。

以上

## 6 その他③〔外国語教育〕

関連委員会	外国語教育センター
関連部署	学事部
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 方針

本センターは、多様な外国語教育の企画・運営・実施を通して学生に十分な教育を行なうことをその方針とする。

#### (2) 目標

平成25年度の目標は、以下の通り。

- ① プログラム作成、見直し、運営、評価
  - ・高校卒業までに培った学生の英語力を下げない。
  - ・英語が必要になった時に困らない英語基礎力を育成する。
- ② 教員サポート
  - ・センターと兼任講師との良好なコミュニケーションを構築し、兼任講師への必要なサポートを行う。
- ③ 学生サポート
  - ・サポート体制を充実することで再履修者数を減らし、昨年度未達成であったコミュニケーション英語Ⅰ～Ⅳの単位未修得学生数を延べで5%以下とする。
- ④ チャットルーム運営
  - ・学生の英語運用能力向上サポートのための活動拠点にするため、5日間効率よく運営する。
- ⑤ 英語運用能力テストCASEC
  - ・入学前に比べ、2%以上点数を向上させる。

### 2 具体的計画

### PLAN

#### (1) プログラム作成、見直し、運営、評価

各レベルの具体的な目標を設定した上で、予習・復習90分を全コミュニケーション英語クラスで徹底させる。

#### (2) 教員サポート

センター委員と兼任講師との良好なコミュニケーションを構築する。同時にプログラム、教授法、学生等の問題を吸い上げ早期に解決する。

#### (3) 学生サポート

必要に応じ、前期・後期に兼任講師・専任講師の授業見学を行い、必要な学生サポートを行う。

#### (4) チャットルーム運営

非常勤講師の協力も得ながら、センター委員全員がチャットルーム運営に関わる。

#### (5) 英語運用能力テストCASEC

CASECの受験態度に問題のある学生が少なからずいる現状を改善し、CASECの点数を向上させるために、CASECの点数を後期のコミュニケーション英語Ⅲの評価に反映できる方策の検討を前期に行い、後期からの導入を目指す。

### 3 取組状況

### DO

「2. 具体的計画」の内、(2) 以外は概ね計画通りに実行された。(2) については、例年通りセンターとしての活動は計画通りこなせたが、そこでの成果を共有するための前後期のランチミーティングや全教員会分科会への兼任講師の参加率がお世辞にも高いとは言えない状況であった。

## 4 点検・評価

## CHECK

(1)、(2)とその成果を図る(3)については、平成26年2月25日在籍者を対象とした未履修者(中国語・日本語クラスを除く)を見てみると、コミュニケーション英語Ⅰで3.21%(前年度は4.35%)、同Ⅱで2.27%(前年度は3.29%)、同Ⅲで6.42%(前年度は8.28%)、同Ⅳで5.8%(前年度は5.62%)であり、単位未修得率の平均は4.43%となり、前年度の5.39%から約1ポイントの改善であり、年度当初目標の5%を無事クリアーした(Ⅲ・Ⅳについては、12月実施のCASECの点数による成績の変動措置あり)。

(5)についても、入学前と比べたCASECの点数が、国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科で5.0%、経営学部で7.5%、教育学部で10.0%とそれぞれ上昇しており、入学前に比べ2%上昇させるという目標を達成できた。

(4)に関しては、週5日間開室体制を実現するために、英語教育の経験のないセンター所属の日本人教員による、いわゆる勉強会のようなものを実施せざるを得なかったことから、次年度は本来のチャットルームの趣旨であるネイティブ教員の確保に努めるべきと考える。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- (1) 上述のように、前期のランチミーティングの出席率が必ずしも高くなかったことから、後期ランチミーティングでは授業参観を前提としたミーティング内容の見直しに取り組んだが、まだその成果は見られない。次年度以降も更なるミーティングのあり方の検討が必要となろう。
- (2) CASECの点数を後期のコミュニケーション英語Ⅲの評価に反映させたことから、前年度には実現できなかった単位未修得率の平均を5%以下とすることができたが、その反映方法については公平性の観点から少なからず問題点があると認識している。この部分の検討が次年度以降には必要となろう。

以上



## 6 その他④〔教職〕

関連委員会	教職運営委員会
関連部署	学事部
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 現在、入学時に目標としていた教職資格を取得できずに、途中で進路を変更せざるをえなくなる学生が少なからず存在する。この現状を踏まえて、確実に教職資格を取得できるように、また教員養成の質保証のために、1年次から丁寧な配慮・指導をしていくことが必要である。様々な提出期日の厳守、単位取得のための学習指導、専門性の向上、生活の指導など、教職運営委員会と教職科目担当教員、またアドバイザーが連携して指導していくことが望まれる。
- (2)
- ① 教職に関する科目の履修を円滑に進めるために、麻疹抗体検査結果の提出を1年次早期に設定し完了すること。\*教育実践演習、学校でのボランティア等、学校での実践の際に欠かせない。
  - ② 着実に単位が取得できるように、きめ細かい指導を行うこと。
  - ③ アドバイザーは休みがちな学生を早期に把握し、生活指導を行うこと。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ① 麻疹抗体検査結果を4月中に確実に提出させ、抗体が無い場合は、期限を決めて早急にワクチン接種を行いその結果を提出させる。  
\* 入学時点で、教職に対する責任に自覚的になることを指導する意味もある。
- ② ゼミ生の実習条件に関する単位取得状況（教育実習不該当者基準も含めて）について、1年次から前期・後期の各成績が確定した時点で、教職運営委員会は、アドバイザーと共有して確認し、アドバイザーに、学生に対して教育実習不該当者にならないよう基準を示した具体的な指導（学習を振り返り、A、Bを取るための勉強法を考えるなど）を依頼する。
- ③ 教職科目の担当者は、学生の履修カルテを参考に、学生の教員としての質が高められるような授業内容を計画する。  
以上、学生の教職資格取得の目標達成と教員養成の質保証のために、個々の学生の修学状況、生活状況を把握し、丁寧に指導していくことが今後の課題であると思われる。

### 3 取組状況

### DO

- ① 麻疹抗体検査結果の提出を1年次早期に設定し完了する。
- ②③教職関連の単位取得状況が見て取れる「履修カルテ」の作成とカルテによる履修指導。中学校、高等学校採用試験対策講座を開設した。

### 4 点検・評価

### CHECK

- ① 抗体検査結果提出状況により評価。検査の精度を上げた抗体検査の適用により「抗体あり」の確認が大幅に改善され、1年次生の検査結果提出は完了している。
- ②③履修カルテの作成進捗状況と指導状況により評価。一部改善の必要あり。中学校、高等学校採用試験対策講座の点検、評価は受講者数、受講者の割合で評価。受講者数は、教職課程履修者のごく一部にとどまっている。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

- ① 本年度、急遽対応が求められた風疹の抗体検査への対応を検討する
- ②③本年度は「教職実践演習」の授業のなかでの一括対応となったが、来年度の中学校・高等学校免許に関しては、半期毎に教科別に担当教員が履修カルテを使って面接を行うのが望ましい。

国際コミュニケーション学部こども教育専攻に関しての履修カルテは既存のものを使用するということであるが、ほとんど記載されていない状況である。どのように進めていくのか検討が必要であろう。

また、本年度の中学校、高等学校採用試験対策講座受講者合計は3年生8名にとどまった。次年度はオリエンテーションなどで、2年生に対しても講座開講の案内を強化する必要がある。

「中・高の教科教育法」については、専任教員による担当を強化し、指導体制をより堅固にする必要がある。また、教育実習のための模擬授業、教案作成を一層充実させるために、3年次の学習が空白にならない方策を検討する必要がある。

「教育実習事前事後指導」中・高の受講生が各教科共に少なく模擬授業の実施が困難だったため、平成26年度からは合同授業が行えるように時間割を調整する。

「教育実習不該当者基準」国際コミュニケーション学部こども教育専攻には教育実習に行く際の不該当者基準が存在するが、その基準をどのように徹底させるかの問題が残されている。

また、これまで書類審査だけであった科目履修生の受け入れは、教職運営委員会による面接を導入して履修許可の審査を行うこととする。

以上



## 6 その他⑤〔自己点検・評価〕

関連委員会	自己点検・評価委員会
関連部署	学生総合相談支援室
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

本年度新たに整えられた「淑徳大学自己点検・評価に関する規程」及び「淑徳大学学部自己点検・評価委員会規程」に基づいて、埼玉キャンパスの自己点検・評価をより適切に機能させていくため、以下の目標を実行していくこととする。

- (1) 昨年度実施して一定程度整えられたPDCAサイクルの実施を、より確実なものにしていく。
- (2) 学生の不利益となるような問題点、修正点等については、積極的に改善を試みていく。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ① 年度当初に年間のスケジュールを示して、それに基づいてPDCAサイクルが確実に実施されていくよう、マネジメントを徹底していく。
- ② 各学科、委員会等の範囲では解決困難な課題を出来るだけ早く察知し、具体的な対応が可能な改善策を講じていく。

### 3 取組状況

### DO

①については、平成25年度大学年報原稿を期限通り提出し、中間振り返り票の取りまとめ、後期授業アンケート実施、報告書の作成も着実に実施した。

②については、全教員会への非常勤教員の参加率の低さ、外国語教育をめぐる問題等について情報を共有し、意見交換を行った。

また、教育・委員会等活動報告書の自己評価に（SからDまで）かなりの開きがあり、評価の客観性を高めていく必要を感じた。

### 4 点検・評価

### CHECK

①については、PDCAサイクルの実施を当初の予定通り達成でき、授業アンケートの実施データを踏まえた集計結果報告書の作成もスケジュール通りに行われた。

②については、問題点、修正すべき点を発見できたが、問題解決に向けて有効な改善策を提示するまでには至らなかった。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

本委員会は、夏季休暇中の8月を除き、毎月1回、年間合計11回の会議を開催した。加えて『平成24年度大学年報』の原稿依頼、取りまとめ、校正等も本委員会（事務局）が担当した。その限りでは、本委員会は精力的に活動したと言える。

自己点検・評価委員会は、何を自己点検・評価するのか。個別の教育組織・委員会等については、各学科、委員会、センターがそれぞれの所掌する業務を自己点検・評価するのだから、本委員会の点検・評価活動の対象はそれではない。ならば本委員会が点検・評価すべき項目は何か。今年度は本委員会の自己理解についても意見交換を続けてきた。

手がかりとなるのは「淑徳大学 学部自己点検・評価委員会規程」の第6条である。  
（自己点検・評価の実施）

第6条 前条の実施に当たっては、以下の調査結果を踏まえる。

- 一 教育研究活動計画書および報告書
- 二 授業に関するアンケート調査
- 三 学生生活実態調査

#### 四 委員会活動計画書および報告書

#### 五 その他教育研究に関する調査

このうち「一」に関しては「教育研究年報」がある。「二」に関しては「授業アンケート集計結果報告書」がある。「三」に関しては「学生生活実態調査報告書」がある。「四」に関しては「教育・委員会等活動計画書および報告書」がある。これらを活用して埼玉キャンパスの教育・研究活動の自己点検・評価を行うのが本委員会の任務と考えられる。本委員会は「授業アンケート集計結果報告書」や「教育・委員会等活動計画書および報告書」を作成したが、それらを踏まえた点検・評価は課題として残った。「教育研究年報」や「学生生活実態調査報告書」に関しても同様である。次年度の課題はこれらの調査結果を活用した点検・評価を推進することである。

以上

## 6 その他⑥〔教育向上〕

関連委員会	教育向上委員会
関連部署	総務部・学生総合相談支援室
関連データ	・授業アンケート集計結果報告書（前期・後期） ・FD推進ニュース・レター ・Faculty Development 成果報告書

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 方針

- ① 教員相互の授業公開・参観の前後期計2回参観
- ② 全教員会分科会（前後期各1回）を含めた教員研修会の年4回実施  
②の報告書作成（年1回）
- ③ 授業点検アンケート（前後期）の実施と集計報告書作成
- ④ FD ニュース・レターの年2回発行

以上の諸策により、専任・兼任・兼担教員の間で課題とそれに対する工夫・改善策を共有し、教員一人ひとり、及び組織としての教育力の向上に務める。

本年度からは教育学部が開設されたため、経営学部も含めて新学部における授業点検アンケートの質問項目と集計カテゴリーの見直し・改定を実施するとともに、3学部の連携・分担に心がける。

#### (2) 目標

- ① 全専任教員の参加・実施と兼任・兼担教員の参加拡大
  - ・方針①②③への専任教員の参加・実施（報告書作成は除く）は100%を目標とする。特に方針①については、通年で1人当たり2回の授業参観をすることとし、教育力の向上に役立てる。
  - ・兼任・兼担教員については、方針①②に積極的参加を促す。
  - ・方針④について、ニュース・レターを年2回発行することにより、専任と兼任・兼担を問わず、授業運営の課題とそれに対する工夫・改善策、その成果を共有する。
- ② PDCAの年間サイクル化
 

本計画書とそれを具体的に実現する毎月の委員会検討事項をあらかじめ作成し、活動経過と結果・成果の記録を取りながら、年度末報告書にて点検し、次年度の課題と目標を検討する。

### 2 具体的計画

### PLAN

- ・兼任・兼担教員の積極的参加を促す。
- ・新学部の授業点検アンケートの質問項目と集計カテゴリーの見直し・改定については、新学部長・学科長と連携して、早期に原案を作成し、実施できるようにする。
- ・FD ニュース・レターの発行スケジュールを確立し、全教員会（配布日）に向けて作業期間が分散されるようにする。
- ・大学教育向上委員会の下、高等教育研究開発センター、自己点検・評価委員会との連携を密接にする。

### 3 取組状況

### DO

#### ① 教員相互の授業公開・参観

専任教員50名は、授業公開期間（前期6月、後期11月）に2種類の授業を参観し、「成果報告書」を作成した（実施率100%）。対象となったのは、のべ106授業である。そのうち専任教員の担当授業数は84コマ（72.9%）、兼任・兼担教員の担当授業数は22コマ（20.8%）であった。

② 全教員会分科会・FD研修会の実施

第1回 前期全教員会分科会研修

・分科会①（5テーマ）

専任教員51名中38名出席（出席率75%）兼任・兼担教員121名中34名出席（出席率28%）

・分科会②（3テーマ）

専任教員51名中38名出席（出席率75%）兼任・兼担教員121名中31名出席（出席率23%）

第2回 講演「埼玉キャンパスの教学体制について」（田中秀親副学長）

専任教員51名中38名出席（出席率75%）職員25名中21名出席（出席率84%）

第3回 後期全教員会分科会研修

講演「大学間連携共同教育推進事業中間報告」（芹澤高斉准教授）

専任教員51名中43名出席（出席率84%）兼任・兼担教員122名中25名出席（出席率20%）

・分科会①（3テーマ）

専任教員51名中44名出席（出席率88%）兼任・兼担教員122名中30名出席（出席率25%）

・分科会②（5テーマ）

専任教員51名中38名出席（出席率75%）兼任・兼担教員122名中23名出席（出席率19%）

第4回 講演「主体的な学びを促すための学生参加型授業のマネジメントについて」

（矢尾板俊平准教授）

専任教員51名中41名出席（出席率80%）職員25名中24名出席（出席率96%）

以上①②の報告書として『2013（平成25）年度 Faculty Development 成果報告書』を平成26年

3月31日に刊行し、さらなる教育力向上の必要性を再確認した。

③ 授業アンケートの実施及び『授業アンケート集計結果報告書』刊行

前後期の所定の期間に授業アンケートを実施し、それぞれの集計結果報告書を、平成25年9月（前期）、平成26年3月（後期）に刊行した。

④『FD推進ニュース・レター』の発刊

Vol. 3を平成25年9月10日、Vol. 4を平成26年3月31日に刊行した。

4 点検・評価

CHECK

目標①について

専任教員及び兼任・兼担教員の参加が目標値を下回り、参加拡大が達成できたとはいえない。全4回の研修会を通じて、全員参加が原則である専任教員の出席率がいずれも100%に届かなかったのは、遺憾である。第1回・第3回の兼任・兼担教員の出席率も昨年比でそれぞれ、16ポイント・11ポイントと低下した。教員一人ひとりが、FDであることを自覚し、教育力向上のための情報収集・交換の場として活用されたい。また、兼任・兼担教員から、分科会のテーマのみならず、内容について事前に知りたい、という要望が寄せられた。26年度からは、内容についても事前にお知らせすることに改めた。

目標②について

年度当初に立案した「平成25年度教育向上委員会計画表」どおり、概ね順調に実施された。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・兼任・兼担教員の全教員会への積極的な参加を促し、出席率を上げるための方策として、分科会の詳細告知を事前に行う。（26年3月より既に実施）
- ・教員相互の授業公開・参観については、兼任・兼担教員も、専任及び兼任・兼担教員の授業を参観できるように改正する。
- ・『授業アンケート集計結果報告書（前期・後期）』ならびに『2013（平成25）年度 Faculty Development 成果報告書』を活用し、教育力向上に努めるよう、全教職員に促す（たとえば、授業アンケートで高評価を得ている授業を参観する等）ことを、委員会として発信する。
- ・高等教育研究開発センター及び自己点検・評価委員会との連携を密にし、〈研修会〉〈授業アンケート〉〈授業公開・参観〉を有機的に関連させて実効的なFDを推進させるよう努める。

以上

## 6 その他⑦〔ハラスメント防止〕

関連委員会	ハラスメント防止委員会
関連部署	総務部、学生総合相談支援室
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

#### (1) 方針

淑徳大学 ハラスメント防止規程に基づき、淑徳大学構成員へのハラスメントを防止し、ハラスメントのない快適な学業・職場環境を保証していくための活動を行う。

#### (2) 目標

- ① ハラスメントの発生を未然に防止する。
- ② ハラスメントが発生した場合に、迅速に適切な対応を行う。
- ③ ハラスメントが発生した場合に、適切な再発防止策を講じていく。

### 2 具体的計画

### PLAN

#### 1. ハラスメントの発生を未然に防止する。

##### (1) 教職員に対して

- ・教職員向けの研修会を年2回実施し、啓発に努める。
- ・教職員向けに他大学でのハラスメント事件について新聞記事等を掲示し、啓発に努める。

##### (2) 学生に対して

- ・ハラスメントの理解とその相談窓口に関する情報提供を全学生に対して実施する。
- ・Webからのハラスメント相談の動向を把握するとともに、相談しやすい体制となるように改善を進める。
- ・学生が学外や海外に出て行う研修・実習の際、及び留学生の受け入れの際には、事前にハラスメント防止研修の実施を担当部署に依頼し、未然防止に努める。

#### 2. ハラスメントが発生した場合に、迅速で適切な対応を行う。

- ・ハラスメント防止委員会において、ハラスメントが発生した場合の危機管理体制と対応過程を確認し、シミュレーションを行い、いざという時の準備をしておく。
- ・初期相談のスキルアップと相談員の姿勢など、相談員に必要な研修会を実施し、相談援助技術を高める。
- ・ハラスメントが発生した場合に、適切な再発防止策を講じていく。
- ・被害者の安全・安心に十分留意し、二次加害や再発防止を図る。
- ・同様の問題が発生しないように具体的な防止策をとる。

### 3 取組状況

### DO

- ・ハラスメント研修会を前期に1回、後期にも1回開催した。
- ・ハラスメント防止に関するポスターを掲載し、啓発に努めた。
- ・全学生にゼミを通してパンフレットを配布した。
- ・インターンシップや短期海外研修においてはハラスメント防止研修を行っている。
- ・Webからの相談窓口は設置されているが、今年度の使用者は有り。
- ・相談員3人が外部の研修会に参加した。
- ・被害者の安全安心には留意し、対応を行い、二次被害は発生していない。

#### 4 点検・評価

#### CHECK

ハラスメント予防の研修会も2回（基礎編と応用編）開催されたこと、ハラスメント相談をより容易にしたこと、ハラスメント発生の際の危機管理体制を確認したことなど、概ねを実行できたことは評価できる。

#### 5 次年度に向けた課題

#### ACTION

来年度は学生間のハラスメント、インターンシップ、教育実習などの学外実習の際のハラスメント防止策に着手してほしい。

以上



---

## 平成25年度 国際コミュニケーション学部 レビュー

### 1. 平成25年度 振り返り

---

国際コミュニケーション学部は、平成25年度生の学生募集は文化コミュニケーション学科のみとなり、平成25年度は経営コミュニケーション学科3～4年次生、人間環境学科2～4年次生、そして文化コミュニケーション学科1～4年次生が在籍している。

#### ●就職内定率、資格支援について

平成25年度就職内定率（内定者/就職希望者）は95.6%で前年度95.2%を0.4ポイント上回った。また、卒業生を分母にした内定者の割合も77.6%で前年度の76.4%を1.2ポイント上回り、年度当初の目標を達成した。

資格支援については、これまで学内5講座のみの開催であったが、平成25年度より外部の資格講座参加者に対する費用補助や、資格取得や検定合格への報奨制度を設けるなど、一人でも多く資格支援に取り組めるよう見直しを図った。結果として、講座数が9つ増え合計14講座、参加者数も前年比で48名増加し、142名となった。

#### ●退学者、除籍者について

平成23年度まで例年おおよそ100名の学生が退学・除籍となっていたが、募集停止による在学生の絶対数減少も影響し、平成24年度は59名、平成25年度は49名と減少傾向にある。

退学・除籍者率は、平成23年度7.1%に対し、平成24年度4.9%、平成25年度は5.0%と減少してきている。学年別では4年生の24名が全体の約半数を占め、そのうち経営コミュニケーション学科が16名を占める。退学理由の筆頭は経済的困窮ではあるが、修学意思の低下も起因していると思われる。退学・除籍49名の入学時の入試区分別人数は、前年度同様、AO入試が21名（43%）で最も多い。退学・除籍者のGPA成績を見てみると、退学時のGPAが1.0未満であった学生が全体の57.1%を占めている。（前年度56%）。学年別に見てみると、GPA1.0未満であった学生の割合は4年生の11名が45.8%を占める（前年度62%）。

### 2. 次年度への課題、方策

---

平成24年度就職内定率（内定者/就職希望者）は埼玉平均で88.8%、全国平均で93.9%、内定者/就職希望者では埼玉平均が67.3%、全国平均は66.0%であり、本学の就職内定率がきわめて高い数値で推移していることが見て取れる。平成26年度の更なる内定率向上を目指し、就職支援に関する正課内キャリア関連科目の指導内容の強化、就職教職協働体制の一層の充実をはかってゆく。

資格支援関連では資格取得合格率上昇のための更なる具体的方策の検討を加えてゆく必要がある。

退学者、除籍者を減らす方策としては、支援が必要な学生を早期に発見し、個別面談の強化、支援連携会議を一層充実させたことが数値の改善につながった面があるが、今後も支援体制の改善に努めてゆく必要がある。そのためには、学部長、学科長、アドバイザー、職員の連携を今以上に強め、問題を抱えた学生に組織的に迅速に対応してゆく方策の具体化に取り組んでゆく。

以上

# 1 教育課程①〔人間環境学科〕

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

### (1) 方針

一人ひとりの学生の主体性を引き出し、地球環境問題や社会福祉、スポーツ・健康、教育についての基礎的知識を身に付けさせる。また、個別に就職・進学指導を行う。

### (2) 目標

- ① 就職を希望する学生の就職率90%以上の確保を目指して、ゼミ担当教員が個別に支援を行う。
- ② 将来の目標・仕事を遂行するために必要な知識・技術や技能を習得していく学習、インターンシップ履修の支援をする。
- ③ Sプランの推進となる「アウトプット学習」の成果発表やアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業を実施する。

## 2 具体的計画

## PLAN

### ①について

- ・一人ひとりの学生の就職希望を聞きながら、総合キャリア支援室のプログラムへの参加を促し、目指す方向性に合わせた個別指導を徹底して行う。
- ・毎回コース会議で、一人ひとりの就職活動状況について情報交換し、就職先に関する支援対策を行う。
- ・保護者懇談会等の機会を利用して、保護者との面談を年2回実施する。

### ②について

- ・インターンシップへの参加を申し込んだ学生の90%以上を、最後まで履修できるように支援し、就職活動につなげていく。

### ③について

- ・1年間に2回以上、教員相互の授業公開・参観をし、アクティブラーニングの授業など、可能な限り対話を重視した授業改善を行う。
- ・各コース、専攻で卒論発表会、ゼミ発表会等、学習成果の発表を行う。

## 3 取組状況

## DO

### ①について

- ・ゼミごとで一人ひとりの学生の就職希望を聞きながら総合キャリア支援室のプログラムへの参加と個別指導を徹底して行った。
- ・コース会議で就職活動状況について情報交換を行った。
- ・5月と10月の保護者懇談会で保護者との面談を実施した。

### ②について

- ・インターンシップへの参加を申し込んだ学生の90%以上を最後まで履修できるように支援し、就職活動につなげていくように、ゼミ担当教員が個別指導を行った。

### ③について

- ・全員の教員が1年間に2回、教員相互の授業公開・参観をし、参加型の授業など、可能な限り対話を重視した授業改善を行う努力をした。
- ・12月、1月に各コース、専攻で卒論発表会、ゼミ発表会等、学習成果の発表を行った。



## 4 点検・評価

## CHECK

一人ひとりの学生の主体性を引き出し、地球環境問題や社会福祉、スポーツ・健康、教育についての基礎的知識を身に付けさせると共に就職・進学指導を個別に支援していく方針を立て、それに向けて具体的な取り組みを行ってきた。インターシップへの参加を申し込んだ学生の54%しか最後まで履修できなかったため、個別支援が不十分であった。しかし、就職に関する目標では、人間環境専攻の学生の就職率が98%であり、こども教育専攻の学生の就職率が100%であったことから、概ね目標は達成した。また、アウトプット学習に関する目標では、社会福祉コースが12月に、こども教育専攻が1月に卒論発表会を行うなど、「アウトプット学習」としての目標が達成できた。しかし、大学間連携の取り組みの一環として計画したアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開の実施については、目標達成に向けて改善の余地がある。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

次年度は、学科閉鎖への取り組みを最重要課題にしたい。そのためには、4年間で卒業できるようにするための履修指導と就職支援を重点的に行っていく必要がある。なお、人間環境学科の在籍者は、観光コース（11生：2人）、スポーツ・健康コース（11生：22人、12生：42人）、社会福祉コース（11生：16人、12生：24人）、共生実践コース（11生：5人）、こども専攻（11生：57人、12生：61人）である。それぞれのコース長を中心にコース会議を通して、学生への具体的な指導等の共通理解を図っていききたい。

以上

# 1 教育課程②〔経営コミュニケーション学科〕

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

### (1) 方針

経営コミュニケーション学科はSプランに基づいて、異文化間のコミュニケーションとビジネスを展開できる人材育成を目標としている。

25年度、経営コミュニケーション学科の学年構成は、3年生・4年生となる。最後の卒業生を送り出すまで、学生一人一人の卒業研究や進路選択などの充実に向けた教育・支援活動を各委員会・センターの協力を得ながら行う（本学科の教育・支援活動が、今年度からスタートした経営学部の志願者を増加させる評価につながる）。今年度は次の目標を設定する。

### (2) 目標

- ① 授業の教材・教育方法を高める。
- ② 学生一人一人の就職について、担当するゼミの学生はもとより他のゼミの学生の就職についても支援する。
- ③ Sプランのアウトプットである学習成果の着実な実施。
- ④ 社会人基礎力の定着を図る。

## 2 具体的計画

## PLAN

- ① 個々の授業のGPAを高め、各学年の平均GPAを2.0以上にする。退学者や除籍者の減少につなげる。
- ② 就職内定率90%以上を目指す。そのために、総合キャリアセンター主催の就職にかかわる講座やインターンシップなどの積極的参加を促す。さらに、ゼミ以外の学生に就職支援を行う。昨年同様、4年生の就職内定状況を全員に配布する。また、ゼミ生の進路・就職状況を把握する。
- ③ 各ゼミにおいて、学生が短期海外研修による「気づき」を得て短期語学研修への参加など学生生活を充実させて進路選択の参考となる指導を行う。
- ④ 社会人としての挨拶ができること、他者の話を聞くことができ、マナーとルールを守ることができること、自らの力で問題を解決していくことができること。

上記の①から④までを後期の経営コミュニケーション学科分科会でPについてCおよびAについて意見交換する。年度末に1年間の①から④について学科会で検討する。

## 3 取組状況

## DO

### ・GPA

GPAを上昇させるための取り組みの一つとして、学生の授業満足度を高めることに取り組んだ。本学科の学生は授業についてよく分からないことを教員に質問する傾向が高い。そのため、教員サイドが学生の授業への出席率を高め、授業を通して自分が向上するを感ずることにより授業満足度を高めるようアドバイスをする。さらに、教材開発により学生の学習意欲を高める努力をする。

### ・就職

今年度も、4年生の就職内定率90%以上を達成目標としている。そのために、学生が総合キャリア支援室に積極的に通い、いくつかの内定を取れるようゼミ担当が支援している。さらに、ゼミの就職指導は、今年度もゼミの垣根を超えて教員が各ゼミの学生に就職先のアドバイスを積極的に支援することになっている。その資料として学生の内定状況を教員に送る。

### ・FD

現在、短期海外研修は実施されていない。しかし、学科の人材育成目標が国際実業人である以上、次の課題を引き続き検討する価値はある。各ゼミにおかれては次のことに留意していただきたい。

学生は、Sプランの経験に基づいて、グローバル化の進展する経済・社会を体験学習して自己を高めることにある。その学習は、各国の異文化・同世代の学生の努力目標・企業で活躍する国際実業人を知ることにある。この学習の成果は、学生自身のこれからの学生生活の努力目標を設定し、将来成りたい人材に向けて努力するきっかけの一つとしている（進路選択の幅をひろげてもらう）。その意味で、学生にどのような気付きをアドバイスすれば学生生活における努力目標を立ててもらえるかにある。

- 社会人としての挨拶・マナー

この力は職場や地域社会のなかで多様な人々とともに仕事を行なう上で必要な社会人基礎力に通じる。その力の一つは、社会人としての挨拶やマナー・ルールに取り組むことである。学生は社会人基礎力の力をつけつつ、学問の専門的知識やスキルで経済社会の現状を分析し・問題を発見し・問題を解決する力をつけていくことが大切である。

- 卒業論文

経営コミュニケーション学科の学生は全員が卒業論文を作成することになっている。ゼミ担当の指導のもとに、学生は4年間の学習の成果として卒業論文を作成している。また、昨年度から一ゼミ1人以上の作品を提出して卒論のレベルを高める努力をしてきている。

## 4 点検・評価

## CHECK

- GPA

2013年度、3年生の前期について、授業アンケート「満足度の推移」の目標を80%以上としたが、その実績は75%であった。また、目標GPAは2.0以上とした。実績は2.06であった（学部平均は2.25）。3年生の後期について、授業アンケート「満足度の推移」の目標を80%以上としたが、その実績は76.7%であった。また、目標GPAは2.0以上とした。実績は2.26であった（学部平均は2.39）。4年生の前期について、授業アンケート「満足度の推移」の目標を85%以上としたが、その実績は79.4%であった。また、目標GPAは2.0以上とした。実績は1.44であった（学部平均は1.8）。4年生の後期について、授業アンケート「満足度の推移」の目標を85%以上としたが、その実績は81.8%であった。また、目標GPAは2.0以上とした。実績は2.17であった（学部平均は2.53）。

- 就職

今年度も、4年生の就職内定率90%以上を達成した。

- FD

短期海外研修はゼミ単位ではない。そのため、各コースの引率者は研修終了後に学生がどのような目標に取り組んで進路の開拓をしているかよくわからない。そこで、各ゼミにおかれては、学生がどのようなFDであれば、Sプランのアウトプットである短期海外研修の「気づき」を得てどのような課題に取り組んで進路開拓しているかを昨年度に引き続き検討課題としていただきたい。

- 社会人としての挨拶・マナー

本学の建学の精神「共生」を実践して教職員と学生、学生同士が挨拶やマナー・ルールに取り組むようにしている。

- 卒論

一ゼミ1人以上の作品を提出して卒論発表会に望めるようにしたい。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- GPA

4年生のGPAを上昇させる一つとして、今後も専門科目に対する授業効果を高める教材開発により、授業満足度を高めることも必要である。

- 就職

昨年度に引き続き、内定率90%以上達成する。

- FD

Sプランの短期海外研修の後、学生の成果である進路選択に係る「気づき」をどう育てていくかのFDについてコース別あるいはゼミ別などのどちらが学習成果の着実な実施となるのか検討する。

- 社会人としての挨拶・マナー

挨拶を明るくかわす校風を作り上げる必要がある。

以上

# 1 教育課程③〔文化コミュニケーション学科〕

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部  
III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

- (1)「国や民族の枠を越えたコミュニケーション能力を備えそこに生きる人々の文化を理解しあい、共生できる人材」を育成するために、各コースの教育目標の達成率を高める
- (2)学科、コースごとの教育目標の達成

## 2 具体的計画

## PLAN

### 英語コミュニケーションコース

- ・英語運営能力を向上させる、CASEC点数600点以上の学生は50点アップを目標、それ以下の学生は100点アップ目標、3年生は全員TOEIC IPを受験する。

### 観光文化コース

- ・コースの特性を最大限に発揮できる学習・キャリア能力形成を目指す。特に前年度の実績を踏まえ、言語能力の着実な向上を目指す。

### 日本語・日本文化コース

- ・日本語能力（語彙力・読解力）を向上させ、日本語検定2級及び漢字検定準2級を目指す。多くの文芸作品に触れることによって、日本の文化や精神の理解を深め、豊かな教養と鋭い感性と洞察力をそなえた学生を育成する。

### 歴史文化コース

- ・研究の基礎力として言語への関心を助長し、語学検定並びに他の歴史検定の3名以上の合格をめざすとともに、フィールドワークの実践を通して知識の肉付けを図る。加えて年間読書10冊、論文12,000字の構成力を育てる。

### レクリエーション文化コース

- ・スポーツ・レジャー業界への就職率50%を目指す。
- ・基礎学力の強化とレクリエーションの専門知識を身につけるため、年間10冊以上の新書や専門書を読むことを目指す。
- ・スポーツ指導力とスポーツイベントの運営や企画（前期に2回、後期に2回実施）。

## 3 取組状況

## DO

### 英語コミュニケーションコース

- ・英語運用能力テストCASECの点数アップを演習の評価に反映させる。評価方法は、ゼミ教員に一任するが、学期開始時に学生に明確に周知する。
- ・演習Ⅲ最後にゼミでCASECを受験する。難しい場合は個人で受験し点数をゼミ教員に提出する。ゼミでCASEC受験を定期的に行い点数アップできるように促す。

### 観光文化コース

- ・旅行業務取扱管理者資格の取得者数を、少なくとも前年度と同等とする（前年度8名）。
- ・言語能力を向上させるために、3年次後期までに英語検定準2級ないしTOEIC500点を取得する学生数を増やす（前年度は該当者なし）。
- ・4年次生全員の9月までの内々定獲得。
- ・現代人として生きるにふさわしい時事問題へ知識と関心の積み上げ、社会性の形成、対話力の錬磨、教養の獲得をめざす。

## 日本語・日本文化コース

- ・日本語検定を年に2回定期的に受験させ、弱点の発見と成績の向上に結び付ける。
  - ・1ヶ月1冊の読書を義務付け、「読書記録ノート」を継続的に作成させる。ただし、対象とする書籍から実用書は除外する。
  - ・新聞コラム「天声人語」「編集手帳」等を用い、毎日ノートに貼って書き写させ（書き写しノートの作成）、読解力を養うとともに、時事問題等への関心を深め、就職活動に役立てる。
  - ・各ゼミの専門分野に応じた目標（例えば、作品の朗読、変体仮名・漢文の学習、博物館・文学館見学、地域の文化研究等）を各自設定させ、セメスターごとに報告させる。
- (\*)「読書記録ノート」には、書名・著者名・刊行年月・出版社名・200字程度の概要・感想（コメント）・参考になる表現や箇所の抄出・問題点等を記入させる。

## 歴史文化コース

- ・関心のある学生の個別指導を徹底するとともに、ゼミ等の時間を利用して検定の準備勉強を取り入れ、ゼミ相互の連絡を密にして競い合うような連関を確保する。

## レクリエーション文化コース

- ・卒業生との交流、レポート指導（専門的知識）の徹底、昼休みを利用したスポーツ大会の開催、夏・冬期休暇でのスポーツ指導体験（母校）

## 4 点検・評価

## CHECK

## 英語コミュニケーションコース

- ・CASEC点数600点以上の学生は50点アップを目標、それ以下は100点アップを目標としたが、平均点が向上したのは4ゼミ中2ゼミだった。
- ・3年生全員TOEIC IPを受験する目標に対し、受験できない学生が多数いた。

## 観光文化コース

- ・旅行業務取扱管理者資格合格4名。旅程管理者資格合格3名。
- ・TOEIC受験者数は7名だが、得点が400点台以下に留まる。
- ・9月までの内々定獲得は約70%。2月時点で就職希望者のうち内定未確定者が1名。
- ・ゼミおよび個人指導を通しての時事問題・社会情勢への関心喚起と教養の育成。
- ・毎週のプレゼンテーション、ディスカッションの実施。その結果としての4年次生全員の高レベルの卒業論文の完成。

## 日本語・日本文化コース

- ・「日本語検定」指導の徹底を行ったが、受講者は1名であった。学生の意識は多少上がっている。
- ・「読書記録」指導教員の変更もあり、指導方法が徹底しなかった。
- ・「新聞コラム」予定していた成果はあがらなかった。
- ・「フィールドワーク」事前事後指導により、学生の意識は高まった。
- ・「専門知識の習得」変体仮名に対する意識は高まった。

## 歴史文化コース

- ・「フィールドワークの実践」については満足度が高いが、種々の検定につき、具体的な成果がなお得られていない。個別の指導についてもなお不十分だった反省がある。意欲のある学生について指導を高め、著しい伸長が見られている。この点は高く評価できる。

## レクリエーション文化コース

- ・スポーツ指導力とスポーツイベントの運営や企画を前期に2回、後期に2回実施、夏・冬期休暇でのスポーツ指導体験（母校）については参加希望学生の把握と、システムについて再考の余地があったが、目標を達成できた。

## 文化コミュニケーション学科全体として

- ・昨年同様、中間報告でコース間の目標達成の進捗状況に大きなばらつきがあったが、年度末でも評価に著しい差が出ている。次年度も、各コースで時間的余裕をもって目標達成のための指導を行うことが望ましい。



## 英語コミュニケーションコース

- ・必修英語クラスが減少する3年次以降は、英語運用能力向上、学習意欲維持のため、来年度は演習内で課題を出す等の対策を考える。
- ・TOEIC IPの学生への周知を徹底し、スコア評価を演習評価の一環とする。
- ・3年次以降は英語学習動機維持が難しく、各ゼミ数名の学生が学習動機を維持するだけに留まった。今年度は演習での指導内容、CASEC評価方法等、話し合われていなかったため、来年はCASEC点数向上の目標達成のため、具体策を提示し、就職活動に有利に働く英語力が獲得出来るようにゼミ教員全力で取り組んでいきたい。

## 観光文化コース

- ・旅行業務取扱管理者総合資格取得を目指す。
- ・語学力の向上には長期的な努力が必要であるので、次年度も引き続きTOEICを複数回受験し、英語力の向上を目指す。
- ・4年次生とのより密接なコンタクトの維持。総合キャリア支援室との情報共有。
- ・引き続き、ゼミナールおよび個人指導を通しての丁寧な教育を行う。併せて新聞、書籍への関心喚起。卒業論文においてその成果が十分に示されることを目指す。
- ・総合的には年間計画が一定程度達成されたと言える。しかし語学力の向上のみ達成度が低い。次年度はこの点を改善したい。卒業要件の単位数をほぼ取得済みの学生が多いので、英語関連の授業を受講することによって能力の向上を目指すなど、積極的な英語学習を学生に勧めたい。

## 日本語・日本文化コース

- ・「日本語検定」キャリアに対する意識と連動させて指導を行う。
- ・「読書記録」ゼミ間の連絡を密にし、指導方法を再考する。
- ・「新聞コラム」文章読解を養成する教材を再考する。
- ・「フィールドワーク」今後も事前、事後学習を徹底させる。
- ・「専門知識の習得」今後も継続して指導したい。

## 歴史文化コース

- ・「フィールドワークの実践」についてはこの状態を維持するとともに、種々の検定等、数的に成果を確認できる問題につき、ゼミ間の連絡を密にして、成果を目指す必要がある。なお、図書館等の案内を徹底し、読書への関心を実践的に高める必要がある。

## レクリエーション文化コース

- ・就職先としてのスポーツ・レジャー業界への興味関心を高めること。
- ・出席率と課題文の提出率を上げること、配布資料を読んだ上、グループワーク、ディスカッションなどを取り入れた授業もある程度入れてみる。
- ・スポーツイベントの運営や企画に全員が一層楽しく参加できるように努力したい。
- ・夏・冬期休暇のスポーツ指導体験（母校）は希望学生全員が参加できるようにしたい。
- ・業界への就職の問題は難しい。給料の低さや仕事の内容もかなり影響している。読書に抵抗感の強い学生がいるのでこれをなくすことが大事。昼休みのスポーツ大会は好評であり、継続する予定。

## 文化コミュニケーション学科全体として

- ・学科全体として昨年度から顕著になっているのは、英語を中心とした語学力アップの壁である。成果を出すには長期的な計画に基づいた指導が必要であるため、学期初めの履修指導や進路指導を通じて指導を強化してゆく必要がある。

以上



## 2 教育組織〔社会福祉士養成教育運営委員会〕

関連委員会	社会福祉士養成教育運営委員会
関連部署	
関連データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『平成25年度 ソーシャルワーク現場実習要項』</li> <li>・『平成25年度 ソーシャルワーク現場実習報告書』</li> </ul>

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 本委員会は、「国際コミュニケーション学部における、社会福祉士国家資格取得に関わる実習及び教育を充実・発展させるとともに、それを適正かつ円滑に運営することを目的に」（規程第1条）設置された趣旨に基づいた活動を行っている。
- (2) 本年度は、3学年体制の中で2～4年生のそれぞれの学年ごとに目標を立て、それが達成できるよう関係する教職員が一丸となって学生をサポートする。

### 2 具体的計画

### PLAN

2年生については、実習を見据えたGPAの自己管理と学外実習に出ることへの自覚を促す教育を徹底していく。

3年生（一部4年生も含む）については、一人の脱落者も出すことなく180時間の実習を行い、かつ全員が実習報告書を作成するとともに、報告会において自身の実習内容を振り返ることができるよう教育を徹底していく。

4年生については、最終的な社会福祉士取得希望者が一人でも多く合格できるよう受験指導のプログラムの充実を図り、合格という成果を挙げられるよう教育を徹底する。

### 3 取組状況

### DO

2年生について、具体的に前期の対応としては、6月中旬に「ソーシャルワーク演習Ⅱ」を通じて、「実習の不該当基準」を学生に明確に提示することで、まずGPA2.0以上の成績が維持できるよう、自覚を促す。また後期からは、実習へ行くためには単位修得が不可欠な「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」が開講するので、先のGPA管理と合わせて、本科目の100%の出席率を目指す（本科目は3回の欠席で単位修得ができないと、本委員会内で定めている）。

3年生について、具体的に前期においては、実習を行うにあたって単位修得が不可欠な「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の100%の出席率を目指した上で、一人の落伍者も出ないように、実習中の指導や助言を徹底して行う。その上で、後期については、社会福祉士受験資格を取得する上で単位修得が必要不可欠な「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」の100%の出席率を目指すとともに、実習を行ったすべての学生が実習報告書を作成し、また報告会に参加できるよう教育を徹底する。（ちなみに、当初の実習予定者は13名であった。）

4年生について、平成25年度については、正課内の受験対策科目として、前期に「社会福祉特論Ⅰ」、後期に「社会福祉特論Ⅱ」を開講している。また正課外の付帯的な自主講座として、「社会福祉士受験講座」を毎週火曜日の3限の時間を利用して開講している。そこで、具体的な目標として前期については、それぞれの講座の80%の出席率を目指すとともに、前期終了段階で一定のレベル（前年度の合格者の同時期での得点状況を参考）に達していない学生については受験辞退も含めた助言を行う。その上で後期についても80%の出席率を目指すとともに、3回実施予定の模擬試験結果も管理しながら、最終目標としては、30%以上の合格率を達成する。（ちなみに、前年度は全国の合格率平均18.8%、本コースは合格者0名であった。本年度の現時点での受験希望者は10名だったので、このまま全員が受験した場合は、3名以上の合格者を目指すこととなった。）

## 4 点検・評価

CHECK

2年生 → 総合評価 B

- ① 対象の演習科目について、毎回出席をとっていたか → A
- ② 出席不良学生に、適切な指導を行えたか → B
- ③ 目的に沿った個別面談を行えたか → B  
資格取得希望学生全員を、次のステップに導けたか → C

3年生 → 総合評価 C

- ① 対象の演習科目について、毎回出席をとっていたか → A
- ② 課題提出のチェックを行えたか → A
- ③ 全員が、実習報告会で報告を行えたか → A  
全員が各自の実習目標を達成し、単位の取得ができたか → C

4年生 → 総合評価 D

- ① 対象の科目や試験対策講座について、毎回出席をとっていたか → B
- ② 合わせて、毎回の小テストや模擬試験結果の管理ができていたか → B
- ③ それを指導に活かしていたか → C  
社会福祉士資格合格者が目標数に達したか → D

## 5 次年度に向けた課題

ACTION

3年生については、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の中で実習計画作りを通じて学生の自己覚知を促し、少なくとも「実習の単位修得に至らないケース」は出さないような指導を徹底する。

4年生については、今年度の合格率が27.5%と例年なみの難易度となったにも関わらず2年続きの合格者0人という最悪の結果であり、次年度はともかく一人でも多く社会福祉士資格合格者を出すための支援を徹底することに尽きる。

また、再試験でも社会福祉士関連科目の単位が取れなかった学生の対応といったこれまでにない事案も出てきており、個別の対応を充実させることは、全学年共通の課題である。

以上

## 3 研究活動

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 研究助成事業への応募・採択による本学の研究活動のさらなる活性化
- (2) 国際コミュニケーション学会活動の持続的展開を図る。

### 2 具体的計画

### PLAN

- (1) 「競争的研究資金」の代表である科学研究費助成事業への積極的応募と採択により、本学の研究を活発にする。
- (2) 「国際経営・文化研究」機関誌、研究奨励、及び学会開催の着実な継続展開を図る。

### 3 取組状況

### DO

- (1) 平成25年度の国際コミュニケーション学部専任教員による科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）の交付は藤森雄介准教授を研究代表者とする「大念仏寺社会事業団所蔵資料を活用した戦後仏教社会福祉事業の展開に関する事例的研究」のみである。補助事業期間（平成23年度～平成25年度）の3年目を迎えたが、ほかに新たな採択はなかった。  
 なお、学内の学術研究助成費はアスコリー教授「英語クラスにおける学習意欲・維持の考察—ドルニエイの英語指導ステラテジーを用いた学生・教員サイドから—」と小倉常明准教授「明治期から大正期における感化救済事業思想に関する一考察」の2件に交付された。学術奨励研究助成費と学術出版助成費は申請がなかった。
- (2) 国際コミュニケーション学会は平成8年国際コミュニケーション学部の創設とともに立ち上げられ、以後、会員数は外部会員も含めておよそ100名前後を維持、年2回の機関誌発行、研究奨励の推進、学会開催を3つの柱に成果を示してきた。機関誌は今年度19年目の発行準備に入っている。研究奨励は教員のみならず、学部学生、大学院学生にも奨励され、それらが学会発表の一翼を担ってきた。その意味で埼玉キャンパスの研究活動の中核を担ってきた。

### 4 点検・評価

### CHECK

- (1) 本学の大学としての研究活動の評価を高めるためには、「競争的研究資金」の代表である科学研究費助成事業への積極的応募と採択が望ましいが、平成25年度は応募者が極めて限られ、国際コミュニケーション学部での採択は皆無だった。
- (2) 上記3つの柱を中心に展開してきているが、その他新しい活動分野を開拓できず、また会員数の増加を図れなかったことは課題である。その理由のなかに、特に埼玉キャンパスの後発学部の教員には、学会が原則自由参加であることから、入会が少なく、これまで浸透できていない状況があった。論文研究は良質の研究成果を示してきていると評価できる。

- (1) 大学全体としての科学研究費助成事業への応募は少しずつ増加しているが、国際コミュニケーション学部専任教員の申し込みは極めて少ないのが現状である。学部廃止により、将来的研究の方向性は不透明ではあるが、教育研究支援センターによる応募説明会、個別相談会、研究計画書の書き方に関する説明会を通じて、少しでも科学研究費助成事業への応募が増え、採択につながることを期待したい。
- (2) 国際コミュニケーション学会は国際コミュニケーション学部を母体としており、当学部が平成28年度末をもって閉じる予定であることから、当学会もその時期をもって閉じることで学会理事会において合意されている。しかし埼玉キャンパスの後発学部の今後の研究活動の場の確保の問題もあり、それらの土壌を準備することは当学会の重要な役割となるだろう。従って、上記3つの柱を持続的に展開させるとともに、埼玉キャンパスの研究活動の集約の役割を果たすべく、今後なお持続的に学会の成果を示してゆくことが必要である。

以上

---

## 平成25年度 経営学部 レビュー

### 1. 平成25年度 振り返り

---

#### 【学 部】

##### ●学生募集（取組み、成果）

アドミッションオフィスと広報で取り組む。募集定員200名に対し、177名（経営学科103名、観光経営学科74名）と定員を下回った。

##### ●キャリア支援（取組み、成果）

平成25年度においては経営学部の学生（1、2年生）の就職活動はスタートしていない。平成26年度から開講する「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」の準備をした。

##### ●正課活動（取組み、成果）

事前・事後学習課題、レポート作成などの課題を増やしたが、その結果平成24年度に比べて平成25年度の一科目当たりの事前事後学習時間は2.1%減少した3.65時間であった。

アクティブラーニングの授業数は、すでに76.1%ある。定量的には充分であり、実践学習の強化で質を深める。

平成26年度からキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳにループリックを導入するための準備をした。入門セミナーや実践学習に実験的に導入するための準備をした。

##### ●正課外活動（取組み、成果）

学外体験学習への参加率は、平成24年度に比して約30%増となった。

平成25年度の簿記3級の合格率52%、簿記2級の合格率55%に達し、簿記1級の合格者1名（経営学科2年生）を輩出した。旅行業取扱管理者の合格率は国内40%、総合50%であった。

#### 【キャンパス】

##### ●（学部ごとの内容を除いた）キャンパス共通の取組み、成果

平成25年末までに学部単位の委員会へ改組終了。平成26年度より学部内で各委員会活動の自己点検評価を実施した。

各学科、各委員会にて成果指標を作成し、自己点検・評価委員会に提出。

### 2. 次年度への課題、方策

---

1科目当たりの事前事後学習時間を平成24年度に比べ10%増の4.1時間とする。

アクティブラーニングの授業数は76.1%であるが、引き続き実践学習の強化で質を深める。

学外体験学習への参加率は、平成24年度に比して約40%増。平成26年度からキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳにループリックを導入。入門セミナーや実践学習に実験的に導入する。

以上

# 1 教育課程①〔経営学科〕

関連委員会	
関連部署	
関連データ	授業アンケート集計結果報告書

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

### (1) 方針

経営学科は、企業経営に必要な専門知識と技能を修得すると同時に、社会人基礎力を備えた人材を育成（学部の教育目的）することで、社会環境の変化に対応でき、リーダーシップを発揮・貢献できる人材の養成を目指す。

上記の教育目的を達成するため、

- ① 経営学分野全般の学問体系の存在基盤・存在意義を示し、経営学の基本的な思考と知識を理解させる教育を行う。
- ② それらの理解を促進するため、また、将来、幅広い知見をもった態度・志（夢）を養成するために、世界の動向、地域の文化・歴史、社会のしくみなどの教養を身に付けさせる教育を行う。
- ③ キャリア教育を実施することで、自己・他者の理解や職業知識・技能を身に付けさせ、主体的な進路の選択能力・態度を醸成し、今、経営学科で学ぶことの意義を理解させる教育を行う。

### (2) 目標

- ・学生満足度 70%以上（とくに1年生後期、2年生）
- ・社会人基礎力の養成  
学外学習への積極的参加態度、連絡・報告などのマナー調査、話し言葉の使い分け、メールのやりとりなどのマナー調査
- ・専門能力の修得力・関心度の向上
- ・簿記検定、経営学検定、販売士検定、FP検定などの受験者数増
- ・退学率 10%未満
- ・GPA 2.00以上

## 2 具体的計画

## PLAN

- ・怠学学生に対する情報をアドバイザーだけがもつのではなく、学科教員全員の情報とし、指導協力できるのであれば協力していく体制をとる。
- ・専門科目の基礎能力としての簿記講座、販売士講座、FP講座、経営学講座の開設および本キャンパスでの受験対応
- ・学習意欲の向上（GPA向上）と社会人基礎力の向上をめざし、さらなる学外学習内容の充実

## 3 取組状況

## DO

- ・学科会議などを利用して、アドバイザーだけでなく、学科教員全体の情報共有を行った。
- ・専門教育などへの学習意欲を高めるために、本学で簿記の受験、経営学検定の受験ができるようにした。また、各種資格検定試験対策として寺子屋講座を開設した。
- ・学外学習として経営学科全員に大日本印刷の工場見学、森永乳業の工場見学、コーセーの工場見学を実施、希望者に東京ガールズコレクション（年2回）の運営体験を実施。



- 学生満足度70%以上  
授業アンケート結果「問1. 総合 授業に対して全体的に満足していますか。」に対して「そう思う」と「ややそう思う」の肯定的評価が、前期70.9%、後期67.3%であった。
- 社会人基礎力の養成  
(学外学習への積極的参加態度、連絡・報告、話し言葉、メールのやり取りなどのマナー状況)  
社会人基礎力(経産省)「1. 前に踏み出す力」「2. 考え抜く力」「3. チームで働く力」は、座学以外での実践的学習の中で養成したい。そこで学外活動を見ると、アドスタッフへの参加者数、リーダーズキャンプ参加者数、ウインターセミナー、スプリングセミナー参加者数が昨年から大きく増加した。また、新しいサークルの結成をいくつも行っている。多くの実績があがっている。ただし、教員・職員との連絡・報告などの基本的なマナーはまだ不十分である。
- 専門能力の修得力・関心度の向上  
(資格、検定の受験者増、ゼミ、専門科目での勉学態度)  
資格・検定への受験者増について、MOS(情報)検定講習参加者20有余名、簿記能力検定受験者数43名、経営学検定4名あり。経営についての興味の向上が見られる。
- GPA2.00以上  
2013年度生1.98、2012年度生2.05であった。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- 学生の授業満足度調査において、肯定的評価が低下傾向にある。低下傾向の主要因は、大学共通・総合教育にある。経営学科で学ぶ学生への基礎教育の重要性についての説明を行う必要がある。
- 社会人基礎力をつけるための、さまざまな課外・学外活動への参加数は増え、その土壌は整いつつある。今後は、こうした活動のなかで、より社会人基礎力を養成できる仕掛けづくりが必要である。また、社会人としての基本的なマナーも身につけたい。これらをあわせて、課外学習だけではなく、企業経営研究Ⅱ・Ⅲの科目のなかで、さらに強化できるようにしていきたい。
- 新しい検定試験対策講座の開設、および公務員試験講座の開設、また、カリキュラムとの資格の関係についての告知などをしていきたい。これらとゼミ、専門科目との関係性についての説明をしていきたい。
- FDなどの授業改善に取り組み、学生の学力増強および維持に引き続き努めていく。
- また、怠学学生あるいは退学予備軍のシグナルを示す数値であるところから、この数値情報の活用をさらに図りたい。

以上

# 1 教育課程②〔観光経営学科〕

関連委員会	教務委員会
関連部署	学事部
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

1. 平成25年度の活動方針
  - ・観光経営学科は、4年間で、観光産業において観光マネジメント能力を形成するための専門的な知識と実践的な能力、および社会人基礎力を備えた人材を育成するための教育を行う。
2. 平成25年度の目標
  - ・1年生の平均GPA2.0を目標とする。(次年度以降上げていく)
  - ・2年生の平均GPA2.5を目標とする。
  - ・1年生の必修科目の出席率80%以上、2年生90%以上を目標とする。
  - ・満足度は、1年生70%以上、2年生75%以上とする。
  - ・退学率をゼロとする。

## 2 具体的計画

## PLAN

1. 導入教育の拡充
  - ・昨年度同様、入門セミナーのアドバイザーのペア制、専門分野の入門科目（オムニバス授業）の授業の進め方の定型化によるゼミ間、オムニバス授業間の平準化を図る。
  - ・レポート作成能力を涵養するため、入門セミナーの充実。
  - ・1年次から観光経営学への興味を抱かせるために、観光経営の現場に触れることのできる学外実習を行う。
2. 体験・実践学習の拡充
  - ・学外学習、体験型学習、双方向学習充実。学外講師招聘。
  - ・観光経営学科の核となる科目である「観光経営研究I」授業の充実を図る。

## 3 取組状況

## DO

- ・昨年同様入門セミナーをペア制とし、クラス間の平準化を図った。
- ・観光経営学科1年生全員が参加する川越観光地見学（事前学習－見学－事後学習の学外学習を行った。
- ・観光経営学入門の授業の進め方を教員間で共有し、教員間の授業の平準化を図った。
- ・東京ガールズコレクションにおける2回の実習（経営学部単位）、日本旅行業会主催旅博13における実習、成田国際空港見学、ホテル日航見学等の体験学習プログラムを充実させた。
- ・観光経営学科の核となる科目である「観光経営研究I」授業の充実7名の外部講師を招き、事前学習－学部講師の授業－事後の学習の方式で順調に進んだ。

- 年間のGPAは1年生（新2年）2.13で目標値を上回っているが、2年生（新3年）は2.42であり目標値を若干下回っている。
- 1年生の必修科目出席率は、入門セミナー 90.82%、観光経営学入門81.25%、経営学総論90.72%、2年生演習Iは95.4%、観光産業論は80.1%、観光経営研究は80.1%であり、ほぼ目標値を達成した。
- 9月10日の時点で2年生の退学者はゼロ、1年生の退学者は1名であった。
- 前期の満足度は1年生61.7%、2年生69.5%であり、目標値を1年生は13.3ポイント5.5ポイント下回っている。後期は1年生は65.5%、年生は71.9%で目標値をそれぞれ9.5ポイント、3.1ポイント下回っている。
- 学外実習のプログラムにおいては、参加者数も多く、学生の満足度も高く、高い成果を挙げた。課外活動の日程を学期の初めに決定したため、学生に参加の動機づけができた。
- 新しい学部の1年目は試行錯誤を重ねた結果が、2年目に生かされた。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

- 1年生（新2年）の成績が下降気味である。2年生の成績も前期に比して下がっているため、原因を究明し対策を打つ必要がある。
- 出席率が下降気味。原因を究明し、担当教員と対策を検討する。
- GPAが0.5以下の学生も存在し、予断を許さない。成績不振の原因判明と対策が必要である。
- アンケート結果によれば、経営学科の満足度に比して、本学科の満足度が低い（特に1年生）。原因の分析と対応策を学科会で検討する必要がある。

以上

## 2 研究活動

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

### 1 平成25年度 活動方針・目標

*ACTION PLAN*

- (1) 顕著な研究業績
- (2) 外部研究資金申請・取得率の向上

### 2 具体的計画

*PLAN*

各教員による教育研究計画書の作成

### 3 取組状況

*DO*

各教員の研究テーマ

- ・株主価値創造の経営
- ・中小企業のイノベーションと地域経済の活性化について
- ・情報処理技術の他分野への応用
- ・パブリックリレーションズに関する理論構築のための文献研究
- ・企業の社会的責任にかかわる実証研究
- ・企業経営における経営情報管理・研究開発管理の効率化に関する研究
- ・有効な管理会計情報の構築にむけて・営業費と収益の関係について（財務諸表における個別対応の可能性に向けて）
- ・米国における商業政策の検討
- ・研究・開発競争の内生化アプローチによる垂直的関連産業における川上部門の最適価格政策に関する研究
- ・労働組合の賃金交渉の形態が海外直接投資に与える影響に関する研究
- ・外部事業環境の現状・将来動向と社会経営資源の制約性・可能性を融合させた、中長期経営戦略の策定システム構築に関する調査研究
- ・観光地における災害からの復旧・復興に関する研究
- ・大学の観光関連学部・学科における海外研修の意義と課題に関する研究
- ・グローバル人材育成の国際比較研究～女性活用の観点から～
- ・観光における運輸機関の役割の研究
- ・観光計画の意義と役割－観光計画と人間・地域・国土の関わり
- ・温泉地の立地と集客力に関する一考察
- ・日本企業の財務行動の史的研究
- ・カジノ導入時の制度設計の考察および提言

科研費への申請者1名、復興庁の助成金申請者1名

### 4 点検・評価

*CHECK*

学会における研究発表は散見される。

論文に関しては、調査中・研究中のケースが多く、学会誌に掲載された例は少ない。

### 5 次年度に向けた課題

*ACTION*

教育、学内運営、研究のバランスをいかに取るかが課題である。

以上

---

## 平成25年度 教育学部 レビュー

### 1. 平成25年度 振り返り

---

#### ●学生募集（取組み、成果）

- ① ホームページを毎月1回以上更新した効果もあって、入学定員を大幅に上回る118名の入学者を確保できた。
- ② しかし延べ応募者数は期待したほどではなかった。初等教育と幼児教育のコースの学生を半数ずつ採りたかったが、結果は初等教育コースが54名、幼児教育コースは64名だった。

#### ●キャリア支援（取組み、成果）

- ① 教員・保育士養成支援センターが教育学部の附属施設として後期の初めに発足した。実態的にはそれ以前から活動していたが、規程が整備され、運営委員会（専任教職員のみ）や連絡調整会議（特任教員を含む）が動き始めたのは12月以降である。また、1年次から教員採用試験対策講座を受講する学生が一定数おり、年度末の合宿にも参加した。初めての合宿は大成功だった。
- ② ピアノ初心者のために非常勤講師を配置したが、参加率が低く、目標を達成できない学生がいた。日本語検定3級合格者は3割程度にとどまった。

#### ●正課活動（取組み、成果）

- ① 初めての現場体験科目であるフィールドスタディーは職業との一体感の確保に役立ち、2年次の学習の動機づけにもつながっている。
- ② 必修科目キャリアデザインIIが典型的だが、GPA平均値の急落（3.13→2.69）が示すように、後期では慣れから来る気の緩みが目立った。

#### ●正課外活動（取組み、成果）

- ① 10月までの半年はボランティアの機会も多く（子ども大学、淑徳教師養成塾、芋掘り大会等）、教育学部生は身体を動かしたり子どもの世話をしたりすることが好きということもあって、興味を持って取り組んだ。
- ② しかし11月以降はボランティアの機会も減少し、学生は授業・サークル活動・アルバイトから成る、単調で刺激のない生活を送るようになり、授業出席率も下降気味になった。

#### ●その他

- ① 学生からの要求で、7月に運動会、12月には球技大会を学部行事として実施した。
- ② 大半の学生が何らかのアルバイトを行っている。多くはスーパー、コンビニ、飲食店等で週3日以上。授業が終わるとアルバイト先に直行し、夕方から深夜まで働くことが多い。その結果、翌朝の授業を休みがちで、授業以外の学習時間も十分に確保されないという問題が出ている。

### 2. 次年度への課題、方策

---

教育学部の学生は理論的な学習は苦手な反面、体験的・実践的な学習には関心を持って積極的に取り組む。この長所は強化していきたい。本学部生は教員や保育士になるという目的を持って入学してくるが、自ら目標を定めて学習に計画的に取り組む学生は少ない。学年ごとの達成課題を明示し、それらの課題を順次達成していくことで目的を実現できるロードマップを示すことが学習の動機づけを高める上で欠かせない。

以上

# 1 教育課程〔こども教育学科〕

関連委員会	こども教育学科
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

### (1) 方針

「実学教育による共生の理念を实践しうる人材の育成」という淑徳大学の建学の精神のもと、学生自らが学ぶ実学教育を行うとともに、教員・保育士に対する強い興味と関心をもつ学生募集を積極的に行う。

### (2) 目標

- ① 学生自らが学ぶ実学教育に関する支援プログラムを作成し、実施する。
- ② 教員・保育士に対する強い興味と関心を持ち、高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している学生、110名以上を確保する。
- ③ 学習成果の発表会やアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業を実施する。

## 2 具体的計画

## PLAN

### ①について

- ・「淑徳教師養成塾」「淑徳子育て支援プログラム」「英語指導に秀でた学生の育成」「幼児体育指導員の資格取得」のプログラムを作成し、2つ以上のプログラムを実施する。

### ②について

- ・教育学部のHPを毎月1回以上更新する。
- ・オープンキャンパスでは、幼児教育コースを中心に体験授業を企画し、4つ以上実施する。

### ③について

- ・1年間に2回、教員相互の授業公開・参観を行う。
- ・アクティブラーニング、ラーニング・コモンズなどの能動的な学習スタイルの授業形態に関する研修を2回以上行う。
- ・実学教育に関する学習成果の発表会を1回以上行う。

## 3 取組状況

## DO

### ①について

「淑徳教師養成塾」のプログラムは、初等教育コースの学生が所沢市・川越市の教育センター等の8月の夏期研修会に参加した。「淑徳子育て支援プログラム」は、幼児教育コースの学生に対して、3月に実施に向けた説明会を行った。また、「英語指導に秀でた学生の育成」「幼児体育指導員の資格取得」のプログラムについては、具体的な実施計画案を作成する段階にとどまった。

### ②について

教育学部のHPでは、こども教育学科の売りに関する内容紹介のHPなど、毎月1回以上更新することができた。特に、学生による「教育学部ブログ」を立ち上げることができた。また、オープンキャンパスでは、幼児教育コースを中心とした「子どもの気持ちになって歌おう」、「ユーモアのあるカードを作ろう」などを企画し、4つ以上実施することができた。

### ③について

教員相互の授業公開は、2回実施できた。また、全員の学生が毎週金曜の2限に学年アワーとして実学教育に関して、その成果を発表できた。具体的には、初等教育コースでは、教育センターで学んだことをパワーポイントにして発表した。幼児教育コースでは、グループごとにパネルシアターを行った。しかし、アクティブラーニング、ラーニング・コモンズなどの能動的な学習スタイルの授業形態に関する目標については、学科会議の議題が多く、研修する時間をとることができなかった。



## 4 点検・評価

## CHECK

本年度は、実学教育による共生の理念を実践しうる人材の育成をめざして活動をおこなってきた。①～③の目標について、概ね達成できた。実学教育に関する支援プログラムでは、それぞれのプログラムを逐次計画通り実施してきた。また、学生募集では、一般入試、センター利用入試で、およそ60名の入学者を確保し、118名が入学をした。しかし、昨年度に比較して受験者数が減少しているので、受験数を増やすようにする必要がある。さらに、学習成果の発表会では、すべての学生が学習成果を発表できた。

## 5 次年度に向けた課題

## ACTION

次年度は、募集活動では、より質の高い学生の確保に努めたい。また、学生指導では、さらに実学教育による共生の理念を実践しうる人材の育成をめざし、「淑徳教師養成塾」「淑徳子育て支援プログラム」を組織的に実施できるようにし、「英語指導に秀でた学生の育成」「幼児体育指導員の資格取得」のプログラムでは、具体的な実施計画案を作成し、実行できるようにしていきたい。

以上

## 2 研究活動

関連委員会	教育学部自己点検・評価委員会
関連部署	教員・保育士養成支援センター
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

- (1) 大学学術研究助成・学術奨励研究助成への申請件数の増加をめざす。
- (2) 科研費等の外部資金獲得を念頭に置いた研究活動を推進し、申請件数を専任教員数の15%とする。

### 2 具体的計画

### PLAN

大学学術研究助成・学術奨励研究助成については、募集情報を周知し、応募を奨励し、申請者を積極的に支援していくことを原則とした。

また、科研費等の外部資金獲得を念頭に置いた研究活動の推進については、公募情報等を一般的に周知することに加えて、意欲のある構成員に申請を積極的に働きかけていくこととした。

### 3 取組状況

### DO

構成員の研究活動への取組状況を調査する指標として、①研究発表等（調査を含む）をどれくらいやっているか、②著書・論文等、③どれくらいの学会等に参加したか、④外部資金への応募状況、⑤社会貢献（地域貢献を含む）の件数、⑥学会等でどのような役職に就いているか、といった指標を設定し、構成員に回答を求めた。回答のあったのは半数であるが、その結果をまとめると次の通りである。

- ① 研究発表等（調査研究を含む）
  - ・研究発表の延べ件数は10件であった。
  - ・このうちポスター発表が2件ある。
  - ・調査やワークショップも1件ずつある。
  - ・国際学会での講演も1件ある。
  - ・それらを除いた6件が、いわゆる学会発表である。
  - ・この6件のうち、いわゆる自由研究発表または個人研究発表が4件、残りの2件はパネルディスカッションや課題研究での報告である。
- ② 著書・論文等
  - ・著書・論文等は合計8件であった。
  - ・そのうち1件は音楽に関わる作品であった。
  - ・また、もう1件は教科書の編集であった。
  - ・それらを除く6件が狭義の著書・論文であり、著書（共著の場合も）が3件、学会誌等に発表した論文が3件であった。
- ③ 参加学会等
 

構成員が昨年度1年間に大会等に参加した学会、研究会は15にのぼった。ほとんどが全国学会（全国大学音楽教育学会、日本教師学学会、日本教師教育学会、日本保育学会、日本高校教育学会、日本デュイ学会、教育哲学会、日本理科教育学会、日本地学教育学会）であるが、地域学会等も2つ（関東教育学会、国際コミュニケーション学会）ある。
- ④ 外部資金応募状況
 

科研費基盤研究（C）一般で2件（「子どもの科学的な学びを伸長する科学体験活動に関するカリキュラム開発」「小規模私立大学教育学部における教員養成カリキュラムの改善に関する研究」）、公益財団法人日本教育公務員弘済会本部奨励金で1件（「教員として活躍している卒業生に対する淑徳大学教育学会による支援体制の構築」）の応募があったが、いずれも不採択に終わった。

## ⑤ 社会貢献

子ども大学みよし、子ども大学ふじみ、三芳町コミュニティカレッジ、教員免許状更新講習、淑徳大学教育学部開設記念公開講座等5件の報告があった。

## ⑥ 役職等

全国規模の学会で副会長（1件）、常任理事相当の役職にある者（5件）、地域学会等で会長（1件）、代表（1件）、理事相当の役職（3件）、地方自治体審議会委員等（2件）の報告があった。

**4 点検・評価****CHECK**

- ・構成員は各自のやり方でそれぞれ活躍していることがわかった。しかし情報が共有されていない。今回調査してみてもはじめて活躍ぶりがわかった。
- ・地域貢献はまずまずだが、国レベルの社会貢献は残念なならない。
- ・科研費をはじめとする外部資金への応募件数は、目標の15%を達成した。

**5 次年度に向けた課題****ACTION**

- ・構成員の研究活動に関する情報を共有できるようにしていきたい。
- ・地域貢献をこれまで通り続けるのはもちろん、地域を超えた規模での社会貢献にも努めていきたい。
- ・科研費をはじめとする外部資金への応募件数をいっそう増やしていきたい。

以上

# 平成25年度 国際経営・文化研究科 レビュー

## 1. 平成25年度振り返り

### ●研究科の学生募集停止

平成26年度、基礎学部である国際コミュニケーション学部の募集停止により、国際経営・国際文化研究科も、平成26年度より募集を停止することに決まった（平成25年3月理事会にて）。この研究科募集停止の情報が影響してか、平成25年度大学院入学者は国際経営専攻にわずか1名であった。また本大学院で平成24年度研究生を過ごした2名も、本大学院には進学せず、他大学院に進学していることから、募集停止の影響がうかがえる。

当然、大学院募集停止は在学生（2年次生11名、そして1名のみ入学した1年次生）への、心理的、実的な負の影響を与えることが予想された。これに対して大学院教員として如何に学生たちへのサービス低下を防ぎ、研究科の教育理念、教育責任を全うするかが大きな課題となった。幸いにして、2年次生11名全員（国際経営5名、国際文化6名）が滞りなく修士号の学位を取得し、また1年次生（国際経営）も平成26年度に向けて順調な修士論文作成準備に入ったようである。

この大学院1年生1名は、ほとんどの講義科目の修了要件単位を平成25年度で取得しており、わずかに残った履修科目も、平成26年度は本大学院専任教員の指導を希望している。そこで客員教授、兼任講師の講義は平成25年度をもってすべて閉講することとした。上記の客員教授、兼任講師には、今までの本大学院での教育への尽力に対して、ささやかではあるが学長も交えて感謝の席を設けた。

募集停止決定に当たっての作業として、在学生への告知、兼任講師への告知、ホームページでの入試情報の削除を行っている。また、本大学院に過去何年にもわたって多くの学生を送っている中央情報学院等には研究科長が出向き、募集停止の知らせと、長年の募集協力に感謝の意を表した。

### ●大学院修士課程最終試験

平成25年度修士課程最終試験は、平成26年2月8日（土）に行われる予定であったが、当日は大雪の予想のため、あらかじめ次週2月15日（土）に延期した。しかし、やはり2月14日（金）から15日（土）にかけて再び記録的な大雪となった。が、修了判定を2月18日（火）に控えていたため、午前中に天候好転の予想もあって、15日（土）には敢えて午後一時より最終試験を行うこととした。しかしながら、前日の大雪で当日は交通機関が麻痺しており、教員・学生から大学に到着できないという連絡が続出して、結局、18日（火）まで延期せざるを得なくなった。18日は他の会議の合間を縫っての最終試験を行い、修了判定は2月25日（火）まで延期された。不可抗力の自然現象とはいえ、15日は、多くの教員、学生が途中の駅で足止めになったことや、18日には他の会議との調整、また場合によっては別の日に別途最終試験を設けるなど、大変な不都合が学生、教員に生じた。改めて、大学院最終試験のみならず、特に入学試験などはどんなに準備しても自然事象の異変には限界があることを思い知らされた。しかし、とはいえ、最大限の想定はしなくてはなるまい。

今回の最終試験日の変更で教訓になったことは、大学にも連絡がつかないような非常事態でも、何らかの方法で、教職員間・学生の連絡を、特に外出先からも含めて、取らなくてはならない状況があるということであった。連絡手段としては、教職員、学生のメールアドレスを記録するポータルサイトを利用したポータブルパソコンやスマートホンなどが有用であった。

## 2. 次年度への課題、方策

平成26年度大学院2年生（国際経営）1名の修了を持って、本研究科は設置廃止となる。そのため、次年度の課題、方策等は記述できない。

以上

# 1 教育課程

関連委員会	
関連部署	
関連データ	平成25年度淑徳大学大学院要項

## 1 平成25年度 活動方針・目標

## ACTION PLAN

- (1) 修士論文作成指導教員の不足の対処及び論文作成の進捗促進。
- (2) 学生サポート及び修士論文指導の質の維持と強化。

## 2 具体的計画

## PLAN

目標(1)について：

専任教員の退職などによる平成25年度修士論文作成指導の空洞化を最小限にする。  
学年暦を修正することにより、論文作成の進捗促進を図る。

目標(2)について：

平成25年度における修士論文作成に向けて教員・学生両者が納得のいく指導体制にする。そのためには、教育責任を果たすためにも詳細に学生たちの希望を聞く面接の機会を持つ。

## 3 取組状況

## DO

目標(1)について：

平成25年度の2年次修士論文指導に当たって、定年退職教員の特任化、副指導教員(副査)の指導教員(主査)としての人事審査などを行うことにより、スムーズで学生・教員が納得いく指導体制づくりに尽力した。また、国際経営専攻では修士論文中間発表会を例年後期に行っていたが、学生・教員両者の希望として、論文作成の進捗を早期にはかり、意見やアドバイスを有効に論文に活用するために国際文化専攻同様、夏期休業前に発表会を開催した。

目標(2)について：

2名の専攻主任が、1年次生、2年次生(合計12)との面接により、生活、学習、修士論文の進捗状況の把握をした。国際経営2年次生では、新年度に入っても指導教員が決まっていない学生もいたため、研究テーマと希望する指導教員に関して詳細を尋ねた。  
この面接は同時に、各種奨学金志望の学生の面接もかねている。

## 4 点検・評価

## CHECK

目標(1)について：

学生の希望研究分野と指導教員専門分野との調整に少なからず難航した。これは平成24年度をもって退職した専任教員(国際経営専攻基幹科目担当)に対して、平成26年度の学生募集停止もあり補充がなかったことや、退職した教員が前もって指導している1年次生たちに次年度の指導教員を示唆しなかったことなどが原因として考えられる。結局、学生の希望研究分野の関係から、平成25年度は1人の教員が3名の2年次生の修士論文作成指導をしなければならないケースも出てきた。

また、国際文化専攻の指導教員である中村三代司教授が8月に急逝し、急遽、副指導教員がその後2年次生の修士論文作成を全面的に指導しなければならない事態も生じた。

両専攻において、副指導教員が中心となって修士論文作成指導に携わらなければならない幾つかのケースもあった。これらの場合には、主査、副査による複数の指導体制のため多少の煩雑さがある。しかし、2名の副指導教員(副査)が、研究科会議を経て指導教員(主査)として承認され、若干ではあるが、指導教員と学生間で直接、円滑な指導が出来るようになった。

いずれにせよ、国際経営5名、国際文化6名の2年次生が評価でき得る修士論文を作成し、また、最終試験にも合格して学位記授与式に臨むことが出来たことは喜ばしい。

目標（2）について：

学生との面接では、2年次生からは修士論文作成の進捗状況、また、1年次生からは研究分野の内容及び指導への希望に関して、様々な学生の不安や心情を聞き出すことができた。留学生のみの大学院であるため、なかなか本音が教員に伝わらない場合もあるが、この面接は有効である。特に、平成25年度は国際経営専攻2年次生何人かが、新年度に入っても指導教員が決まっておらず、研究テーマと希望する担当指導教員に関しての詳細に尋ね、教育責任上、彼らの希望を優先とした。

## 5 次年度に向けた課題

## *ACTION*

目標（1）について：

平成26年度は、国際経営2年次生が1名のみとなる。すでに指導教員の指導のもと学生の修士論文作成の準備に入っている。

目標（2）について：

上記学生に対しては、指導教員、専攻主任、研究科長の三者を中心に、学位記授与式に無事に臨むことが出来るよう、教育責任を果たす所存である。

以上



## 2 教育組織

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

### 1 平成25年度 活動方針・目標

### ACTION PLAN

(1) FD研修により修士論文審査基準の設定をする。

### 2 具体的計画

### PLAN

目標(1)について：

平成25年度の2年次生全員が中国からの留学生であるため、日本での就職活動を如何に効果的に行うかを、学生、教員ともどもFDミーティングにて研修することを計画した。

### 3 取組状況

### DO

目標(1)について：

平成25年6月25日(火)午後1時～2時、2年次生(全員が留学生)の就職活動に関して、教員・学生全員が出席してのFDミーティングが行われた。

講演：小澤信夫氏(学部兼任講師)「日本企業への就職内定を頂くためのノウハウ」

### 4 点検・評価

### CHECK

目標(1)について：

予想外に2年次生11名のうち、8名が帰国することなく日本での就職を希望した。これは、日本への留学生にとって何らかの理由で母国の中国での就職よりも、日本の企業への就職の方が容易と考えるからなのではないか。

小澤氏の、日本企業への具体的な就職活動のアドバイスはその点で大いに役立ったと思われ、同時に指導する教員にも有益であった。

### 5 次年度に向けた課題

### ACTION

目標(1)について：

平成26年度は、大学院生は国際経営2年次生が1名であるため、やはり同様に当該学生に対して上記の小澤氏による就職活動アドバイスを活用していく。

以上

### 3 その他

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

3 埼玉キャンパス

#### 1 平成25年度 活動方針・目標 ACTION PLAN

(1) 国際交流事業の充実を図る。

#### 2 具体的計画 PLAN

目標(1)について：  
少なくとも、年間1校の海外学術機関と交流を持つ。

#### 3 取組状況 DO

目標(1)について：  
平成25年7月18日(木)、台湾・中国文化大学・商学院MBAプログラム(院生10名、引率教員4名)の本大学院訪問があり、学術交流が行われた。

#### 4 点検・評価 CHECK

目標(1)について：  
本大学院専任教員・山田仁志准教授による「日本企業の経営者報酬について」の講義に対しての高い評価を得た。またキャンパスツアー、昼食会等で両大学教員間、学生間でのコミュニケーションを図ることが出来た。

#### 5 次年度に向けた課題 ACTION

目標(1)について：  
大学院は平成25年度をもって、募集を停止しているが、淑徳大学としてはますますグローバル化する昨今において国際交流は欠くことのできないアクティビティである。学生間の交流に加え、教員間の交流も同様に重要である。

以上